

利用者アンケート調査結果【概要版】

1. 調査の概要
2. 調査結果

1. 調査の概要

(1) 調査の目的

利用者参加制度（北アルプストレイルプログラム（仮））に対する利用者（登山者）の意識・意向を把握し、持続可能な制度運用にかかる改善点を検討すること。

(2) 調査項目

①登山者に関する現状把握

- ・基本属性・登山実態
- ・登山者は登山道整備の状況についてどのくらい知っているか。
- ・今回、寄付を行ったか。
- ・協力金を支払った理由・支払わなかった理由

②寄付金制度導入に対し賛同が得られているか。

- ・登山者が参加しうる登山道維持とは何か。

(3) 調査方法

QR 付き広報媒体を登山口等に設置し、利用者自身が QR を読み取り Web サイトにアクセスし、オンラインで回答する。

ただし、利用者の属性が偏ることを避けるため、一部の登山口で日時を限定して調査員による手渡しでの配布を追加的に実施し、アンケート調査への協力を呼びかけた。

(4) 調査期間

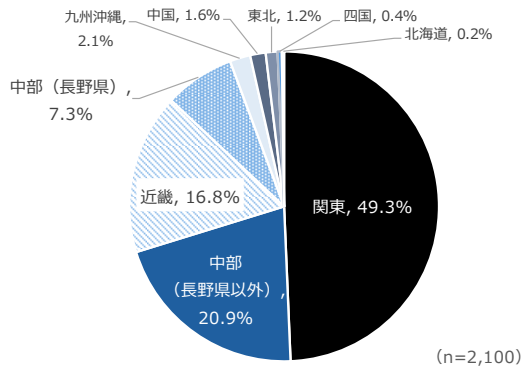
令和3年9月18日（土）～同年10月18日（月）

(5) 回収結果

回答数 2,100
アクセス数 3,615

(6) 回答者のプロフィール

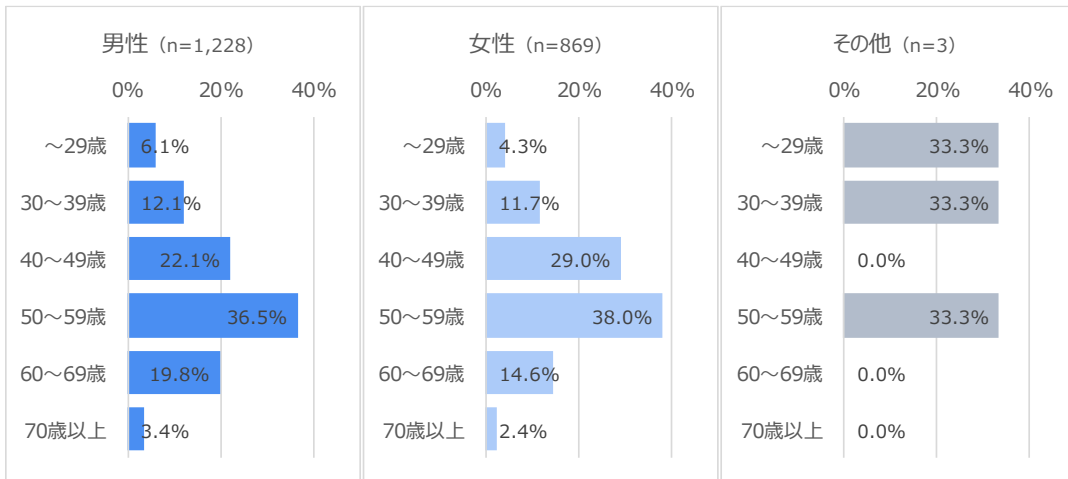
地域別



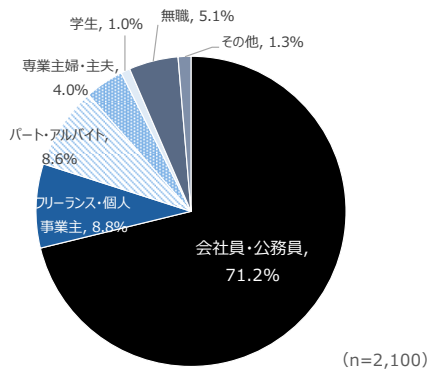
都道府県別 (上位 10 位)

順位	都道府県	人	割合
1	東京都	442	21.0%
2	神奈川県	253	12.0%
3	愛知県	230	11.0%
4	長野県	154	7.3%
5	大阪府	139	6.6%
6	埼玉県	133	6.3%
7	千葉県	120	5.7%
8	兵庫県	79	3.8%
9	岐阜県	54	2.6%
10	京都府	53	2.5%

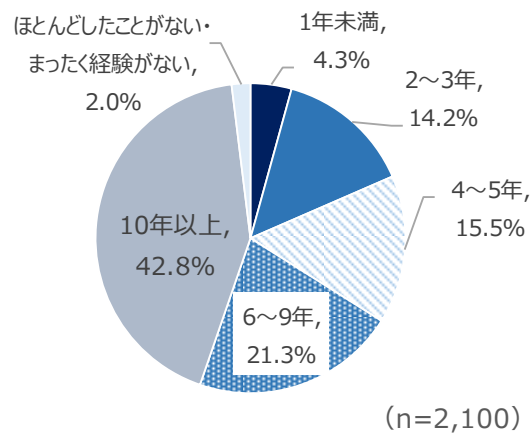
性・年代別



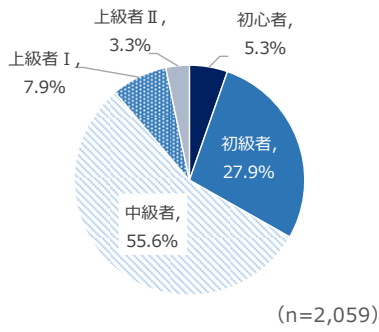
職業



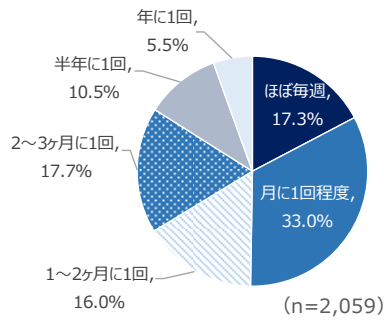
登山歴



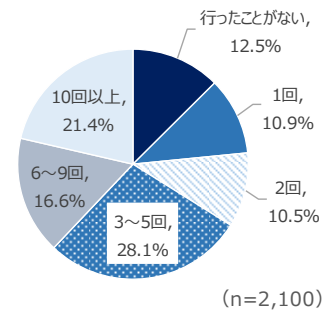
登山レベル



登山頻度



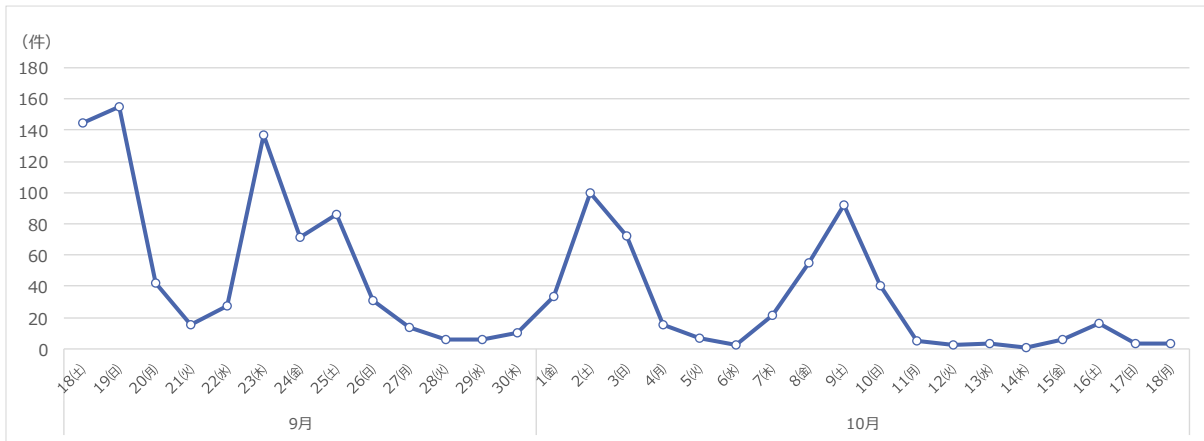
槍穂高・常念山脈の登山経験



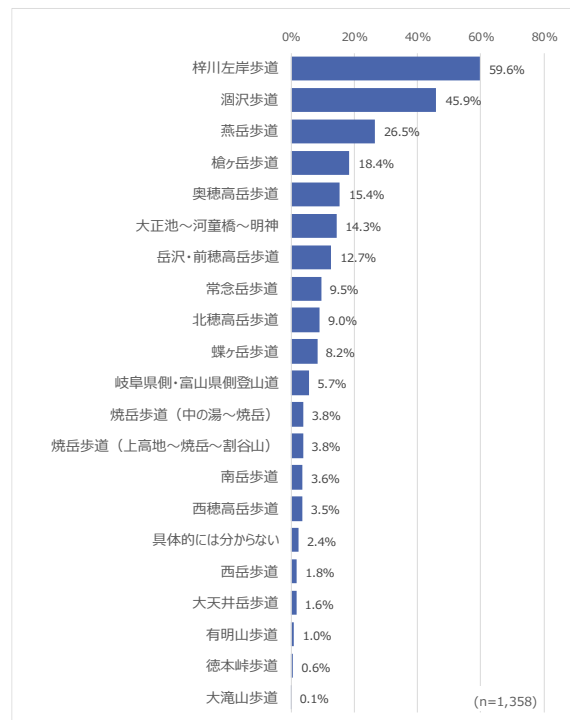
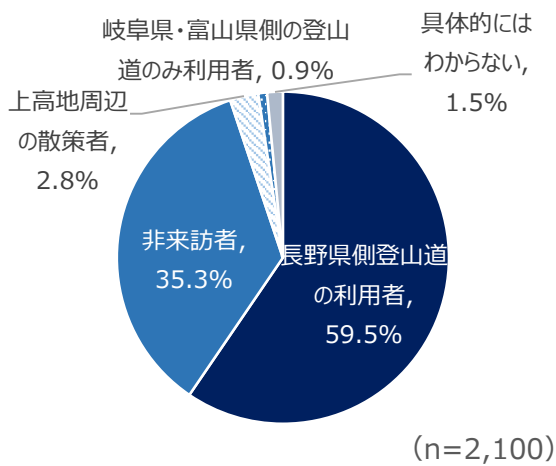
(注) 調査結果中の合計値は、四捨五入の関係で一致しない場合がある。

(7) 回答者の来訪動向

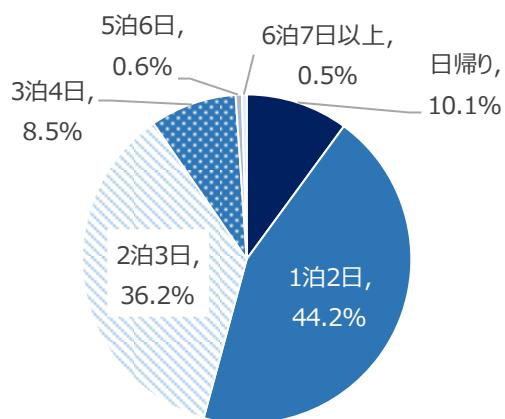
登山開始日



登山道の利用タイプ

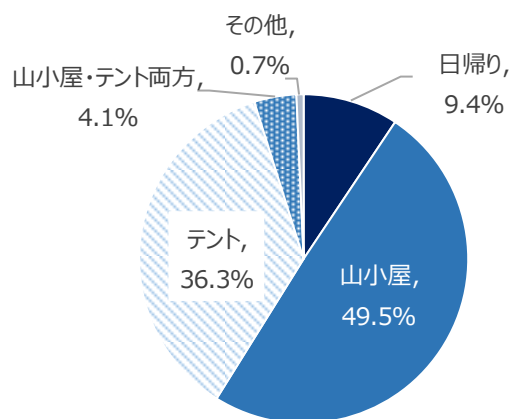


登山日数



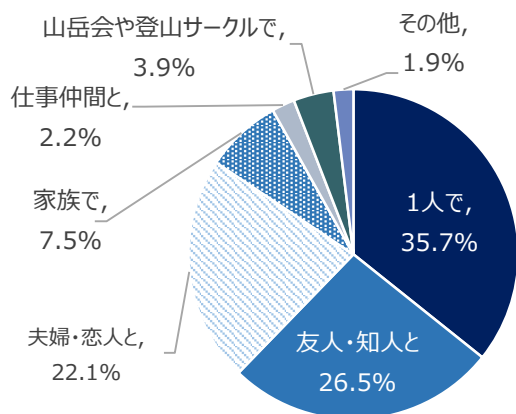
(n=1,293)

宿泊形態



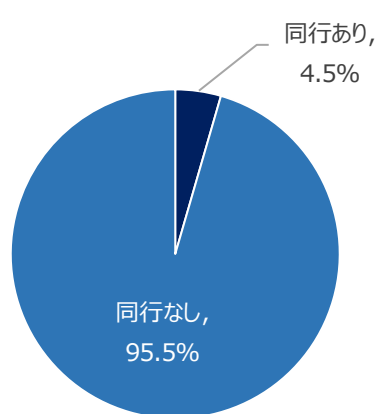
(n=1,279)

同行者



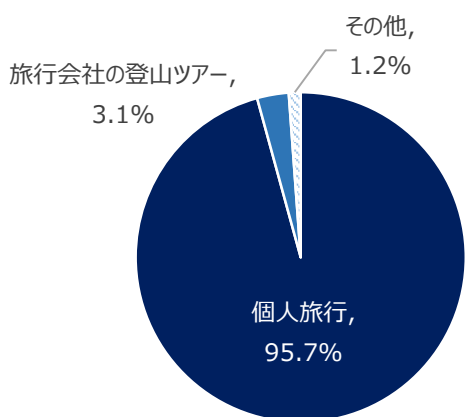
(n=1293)

山岳ガイドの同行有無



(n=1293)

登山形態



(n=1292)

(注) 調査結果中の合計値は、四捨五入の関係で一致しない場合がある。

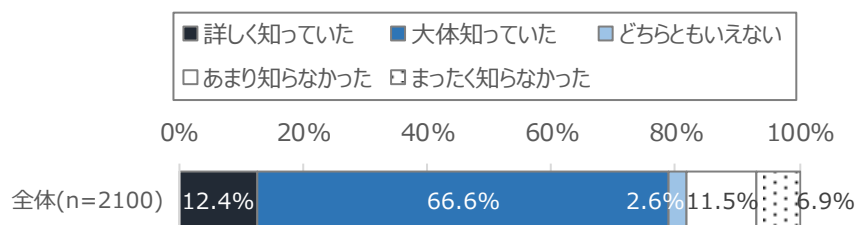
2. 調査結果

1. 北アルプス南部地域の登山道の維持に関する問題

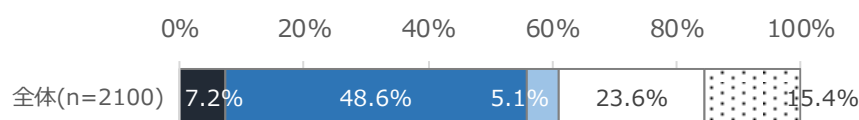
(1) 問題に対する認知度

- ・北アルプス南部地域で、行政機関だけでなく、民間の山小屋が登山道の維持の作業を行っていることに対しては、約8割が「知っていた」と回答した。
- ・登山道の維持管理に必要な費用の不足分を、民間の山小屋が収益の一部から持ち出して維持していることに対しては、約5.5割が「知っていた」と回答した。
- ・自然や社会の環境変化により、山小屋の経営状況が悪化していることにより、登山道維持ができなくなる可能性が生じていることに対しては、約7割が「知っていた」と回答した。

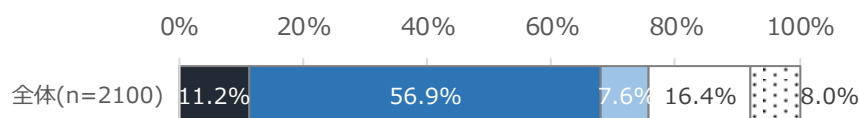
Q1：北アルプス南部地域では、行政機関だけでなく、民間の山小屋が登山道の維持*の作業を行っていることをご存知でしたか。(1つだけ)



Q2：現在、登山道の維持管理に必要な費用は、行政などの予算の範囲内では賅いきれない状況です。この不足分を、民間の山小屋が収益の一部から持ち出して、登山道を維持していることをご存知でしたか。(1つだけ)



Q3：近年、自然災害の多発や新型コロナウイルス感染症の流行など自然や社会の環境変化により、山小屋の経営状況が悪化しています。このことにより、これまでと同様の登山道維持ができなくなる可能性が生じていることをご存知でしたか。(1つだけ)



<登山歴別>

- ・登山歴別では、いずれの設問も登山年数が長くなるほど認知度が高まった。

	Q山小屋が作業をしていること	Q山小屋が資金を持ち出していること	Q山小屋の経営悪化と登山道維持の危機
ほとんど経験がない(n=41)	36.6%	26.8%	29.3%
1年未満(n=90)	57.8%	32.2%	41.1%
2~3年(n=298)	61.7%	39.3%	52.3%
4~5年(n=325)	79.4%	57.8%	68.6%
6~9年(n=448)	82.8%	56.0%	72.8%
10年以上(n=898)	86.9%	64.3%	75.3%

<槍穂高・常念山脈の登山経験別>

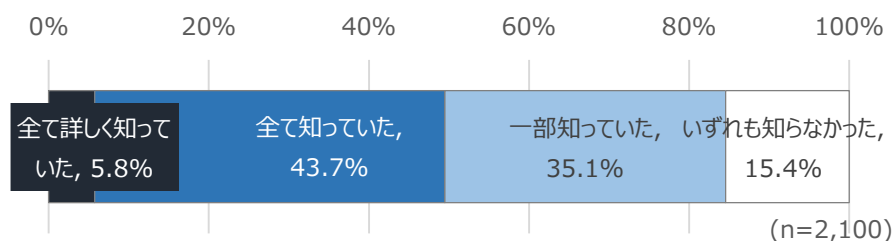
- ・槍穂高・常念山脈の登山経験別では、いずれの設問も経験が多いほど認知度が高まった。

	Q山小屋が作業をしていること	Q山小屋が資金を持ち出していること	Q山小屋の経営悪化と登山道維持の危機
行ったことがない(n=263)	49.8%	31.9%	41.4%
1回(n=229)	66.4%	43.7%	58.5%
2回(n=220)	71.4%	43.6%	61.8%
3~5回(n=591)	82.2%	56.0%	71.1%
6~9回(n=348)	89.1%	62.4%	77.6%
10回以上(n=449)	94.4%	76.8%	80.4%

<現状に対する認知度グループの設定>

- ・北アルプス南部地域の登山道の維持に関する問題への認知を尋ねる各設問（Q1、Q2、Q3）の回答の組み合わせから、以下の4つのグループを設定したところ、5.8%が「全て詳しく知っていた」、43.7%が「全て知っていた」、35.1%が「一部知っていた」、15.4%が「いずれも知らなかった」に分類された。

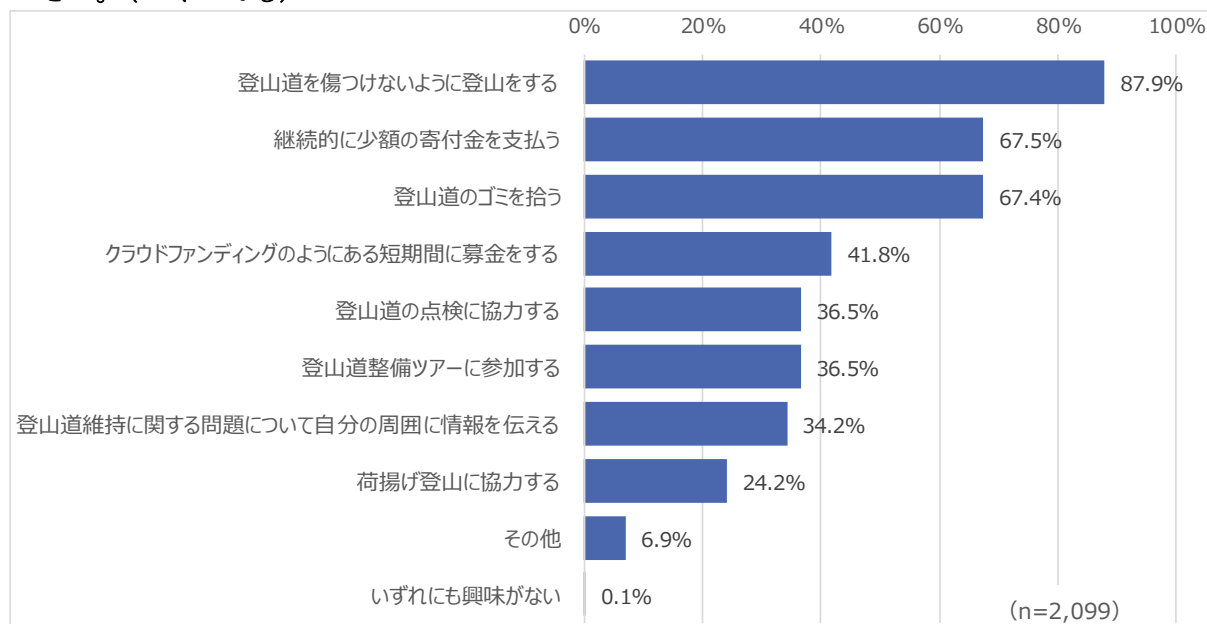
全て詳しく知っていた	Q1、Q2、Q3の全ての設問に対して、「詳しく知っていた」と回答した人
全て知っていた	Q1、Q2、Q3の全ての設問に対して、「詳しく知っていた」または「大体知っていた」と回答した人（3つとも「詳しく知っていた」は除く）
一部知っていた	Q1、Q2、Q3のうち1つまたは2つの設問に対して、「詳しく知っていた」または「大体知っていた」と回答した人
いずれも知らなかった	Q1、Q2、Q3の全ての設問に対して、「あまり知らなかった」または「まったく知らなかった」または「どちらともいえない」と回答した人（「詳しく知っていた」「大体知っていた」と答えた設問がなかった人）



(2) 協力してもよい行動

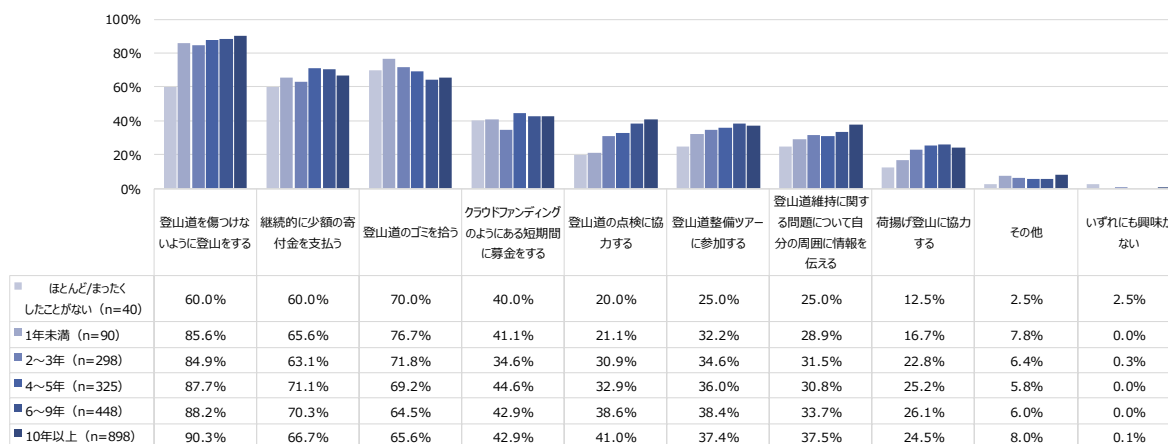
- 登山道維持のために協力してもよい行動は、「登山道を傷つけないように登山をする」が87.9%、続いて「継続的に少額の寄付金を支払う」(67.5%)、「登山道のゴミを拾う」(67.4%)となり、寄付金の支払いは第2位となり、クラウドファンディングよりは高順位であった。

Q：北アルプス南部地域の登山道を今後も持続的に維持していくために、皆様に協力いただけることとして、例えば以下の行動があります。あなたが協力してみたいと思うものをお選びください。(いくつでも)



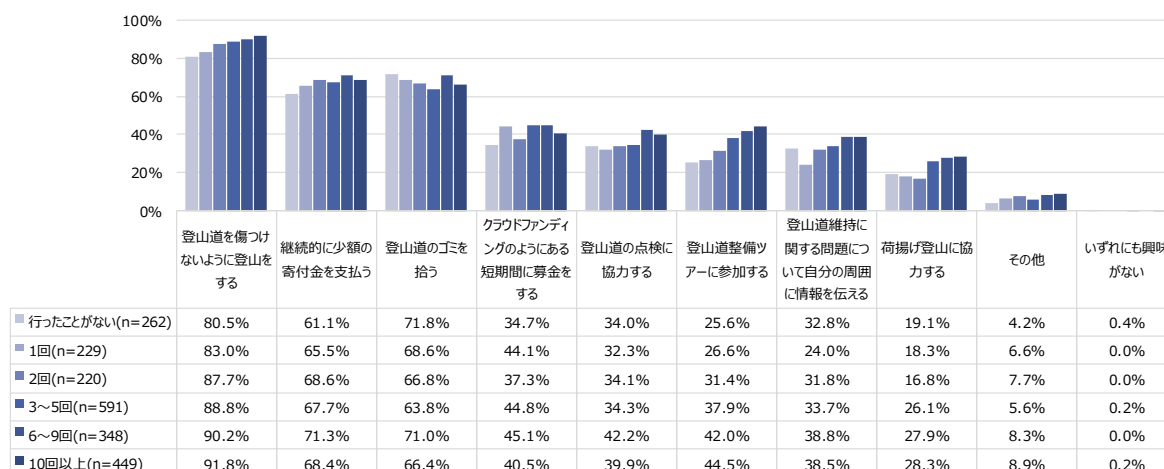
<登山歴別>

- 協力してもよい行動を槍穂高・常念山脈の登山経験別に見ると、「登山道の点検」、「登山道整備ツアー」、「登山道維持に関する情報発信」、「荷揚げ登山」では、登山歴が長い人の方が高い傾向が見られた。



<槍穂高・常念山脈の登山経験別>

- 協力してもよい行動を槍穂高・常念山脈の登山経験別に見ると、「登山道を傷つけないように登山をする」、「登山道整備ツアーに参加する」では経験が多い人ほど割合が高くなった。



<現状に対する認知度グループ別>

- 協力してもよい行動を現状に対する認知度別に見ると、いずれのグループでも「登山道を傷つけないように登山をする」が最も高く8割以上を占めた。「継続的に少額の寄付金を支払う」、「クラウドファンディングのようにある短期間に募金をする」、「登山道の点検に協力する」、「登山道整備ツアーに参加する」、「登山道維持に関する問題について自分の周囲に情報を伝える」、「荷揚げ登山に協力する」は、認知度が高いほど選択率が高い傾向が見られた。

	全て詳しく知っていた(n=121)	全て知っていた(n=918)	一部知っていた(n=737)	いずれも知らなかった(n=323)
登山道を傷つけないように登山をする	89.3%	89.5%	88.3%	81.7%
継続的に少額の寄付金を支払う	69.4%	74.2%	63.1%	57.6%
登山道のゴミを拾う	71.1%	66.2%	66.2%	71.8%
クラウドファンディングのようにある短期間に募金をする	55.4%	42.2%	41.7%	36.2%
登山道の点検に協力する	57.0%	40.4%	33.0%	26.0%
登山道整備ツアーに参加する	52.1%	39.1%	31.8%	34.4%
登山道維持に関する問題について自分の周囲に情報を伝える	47.9%	36.4%	29.6%	33.4%
荷揚げ登山に協力する	37.2%	27.9%	18.6%	21.4%
その他	14.9%	6.9%	7.1%	3.7%
いずれにも興味がない	0.0%	0.0%	0.0%	0.9%

<協力してもよい行動：その他>

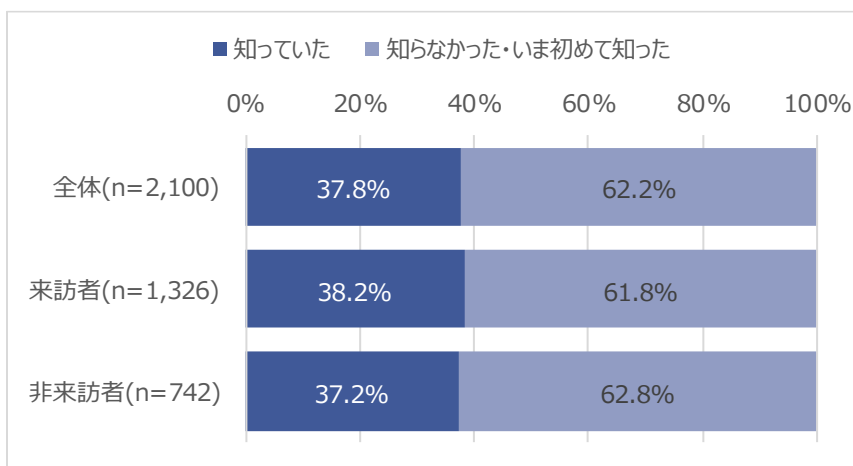
カテゴリー	(件)
入山料・協力金を支払う／有料化・既存利用料金への上乗せ※寄付金と区別	84
寄付の方法	18
山小屋や地域にお金を落とす	14
その他意見(肯定的)	6
その他行動	6
選択肢に関連するコメント(整備・荷揚げ)	5
選択肢に関連するコメント(情報発信)	4
行政への働きかけ	3
選択肢に関連するコメント(ゴミを残さないこと)	3
その他意見(否定的)	1

2. 「北アルプストレイルプログラム（仮）」について

(1) 取組に対する認知度

- ・ 今回の取組に対する認知度は、「知っていた」が 37.8%、「知らなかった・いま初めて知った」が 62.2%となり、知らなかった人の方が多かった。
- ・ 来訪者（長野県側登山道の利用者、上高地周辺の散策者、岐阜県・富山県側の登山道のみ利用者）、非来訪者に分けて見ると、両者に差は見られず、非来訪者であっても来訪者と同様に認知していた。

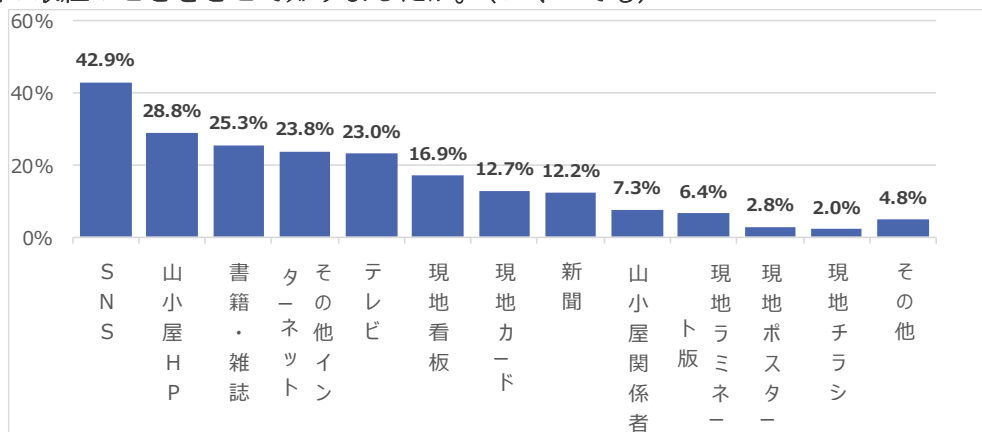
Q：北アルプス南部地域で、登山道の利用者に寄付金をお支払いいただく取組を実施していることをご存知でしたか。（1つだけ）



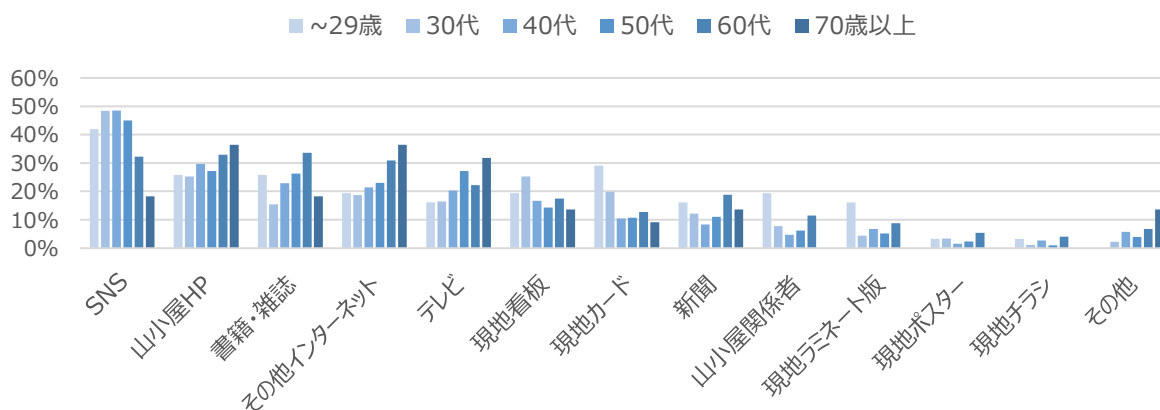
(2) 認知のきっかけ

- ・ 今回の取組を知っていた人に対して認知したきっかけを尋ねると、「SNS (Facebook、Twitter、Instagram)」が 42.9%と最も高く、「北アルプス南部地域の山小屋 HP (28.8%)」、「山岳・登山に関する書籍・雑誌 (25.3%)」、「その他インターネット (23.8%)」、「テレビ (23.0%)」と、現地に設置した広報媒体以外のメディアが上位となった。現地に設置した広報媒体の中では、「看板 (16.9%)」、「カード (12.7%)」と比較的高かった。
- ・ 「山岳・登山に関する書籍・雑誌」の回答者に、具体的な書籍・雑誌名を尋ねると、『山と溪谷』が多かった。

Q：今回の取組のことをどこで知りましたか。（いくつでも）



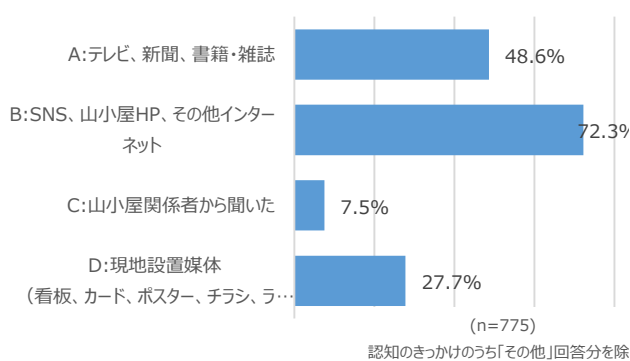
<年代別>



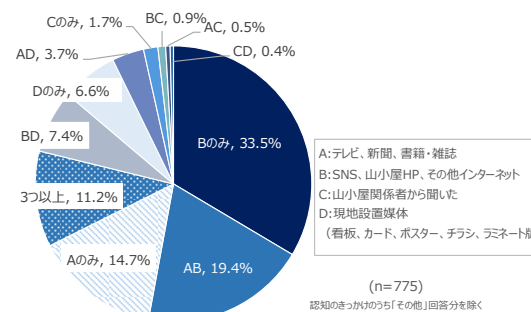
<認知きっかけ：種類別分類>

- ・ 認知のきっかけを、A:テレビ・新聞・書籍・雑誌、B:SNS・山小屋HP・その他インターネット、C:山小屋関係者から聞いた、D:現地設置媒体（看板・カード・ポスター・チラシ・ラミネート版）に分類し、その選択率、組み合わせを見た。
- ・ 選択率が最も高ったのは **B:SNS・山小屋HP・その他インターネットで7割**を占めた。次いで、A:テレビ・新聞・書籍・雑誌が5割となり、実証実験中に現地に設置した媒体であるDは3割弱となった。
- ・ A、B、C、Dの組み合わせで見ると、Bのみが最も多く3割以上を占め、次いでAB（19.4%）、Aのみ（14.7%）となった。**認知のきっかけがDの現地設置媒体のみだったのは、6.6%**にとどまった。

認知のきっかけ種類別の選択率



認知のきっかけ組み合わせ構成比



<認知きっかけ：その他>

カテゴリー	(件)
ラジオ(山カフェ)	19
知人・友人	11
山岳ガイドからツアーで	3
その他	4

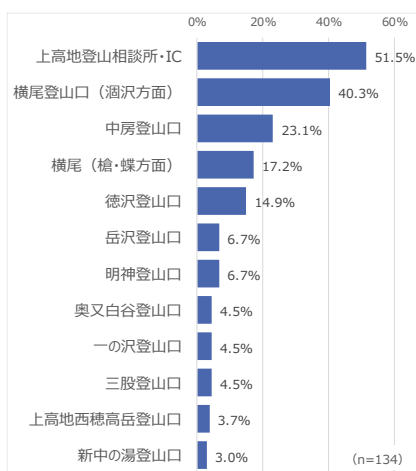
<認知きっかけ：書籍・雑誌>

書籍・雑誌名	(件)
山と渓谷	130
PEAKS	29
岳人	22
ランドネ	9
ワンダーフォーゲル	8
山岳団体会報など	1
その他	3

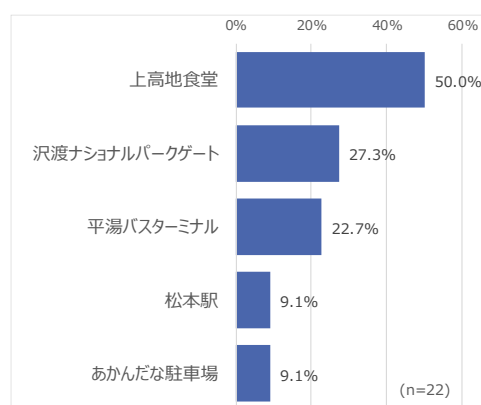
(3) 認知のきっかけ（媒体別）

- ・ 現地に設置した広報媒体について、それぞれどこを見たかを尋ねた。看板は、「上高地登山相談所・インフォメーションセンター」が51.5%と最も高く、「横尾登山口（涸沢方面）」（40.3%）、「中房登山口」（23.1%）が続いた。
- ・ ポスターは「上高地食堂」（50.0%）、チラシは「アルピコ交通バス車内」（93.8%）、カードは「登山口で調査員から受け取った」（72.0%）、ラミネート版では「山小屋」（93.9%）がそれぞれ最も多かった。

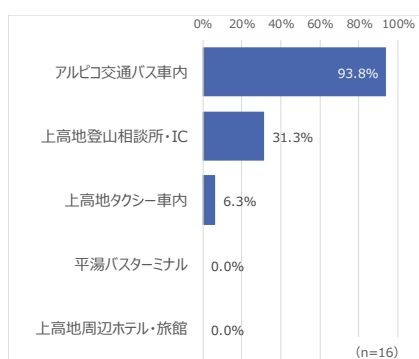
Q: 「登山口などに設置された立て看板」で知った方へ、看板を見た登山口を全てお選びください。（いくつでも）



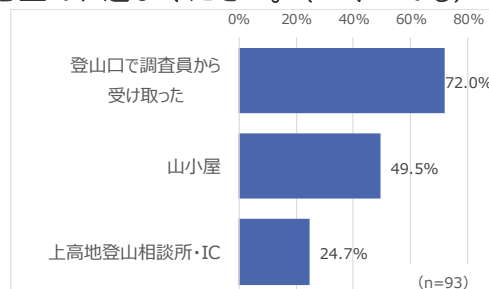
Q: 「ポスター」で知った方へ、ポスターを見た場所を全てお選びください。（いくつでも）



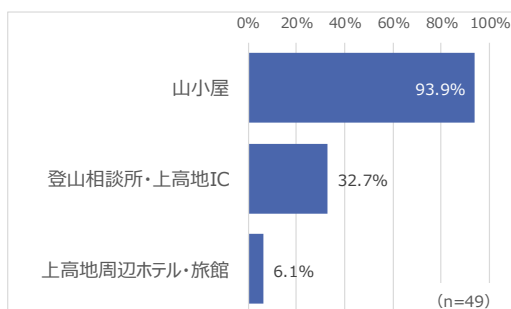
Q: 「チラシ」で知った方へ、チラシを見た場所を全てお選びください。（いくつでも）



Q: 「カード」で知った方へ、カードを見た場所を全てお選びください。（いくつでも）



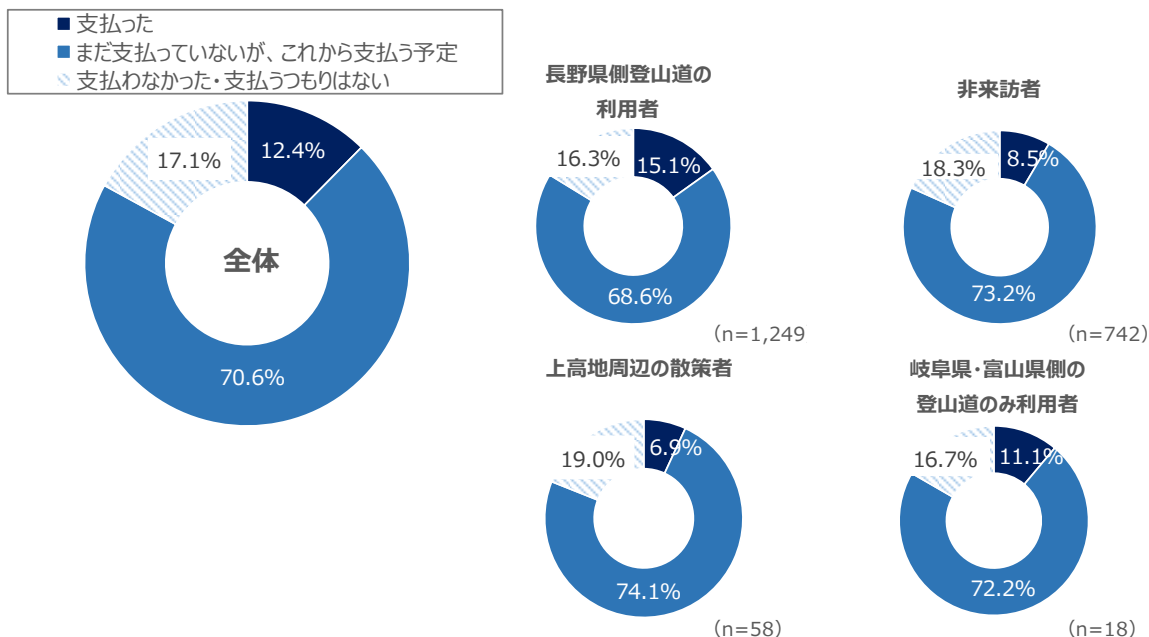
Q: 「ラミネート版」で知った方へ、ラミネート版を見た場所を全てお選びください。（いくつでも）



(3) 支払い有無

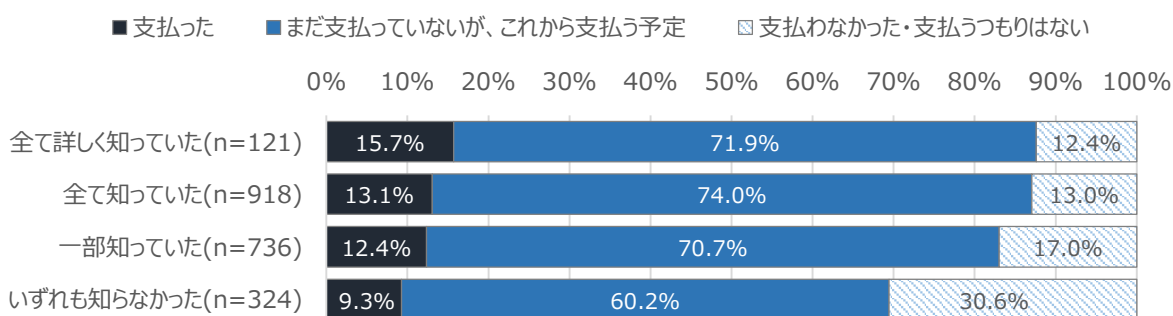
- ・今回の寄付金を支払いについては、「支払った」が12.4%、「まだ支払っていないが、これから支払う予定」が70.0%、「支払わなかった・支払うつもりはない」が17.1%となり、**8割以上が支払いに協力する姿勢**を示した。
- ・登山道の利用タイプ別で見ると、長野県側登山道の利用者は「支払った」が比較的高かったが、非来訪者であっても支払いには協力的であった。

Q: 今回、寄付金をお支払いいただきましたか。もしくは、支払う予定がありますか。(1つだけ)



<現状に対する認知度グループ別>

- ・現状に対する認知度グループ別に見ると、**認知度が高い方が支払いに協力的**であった。



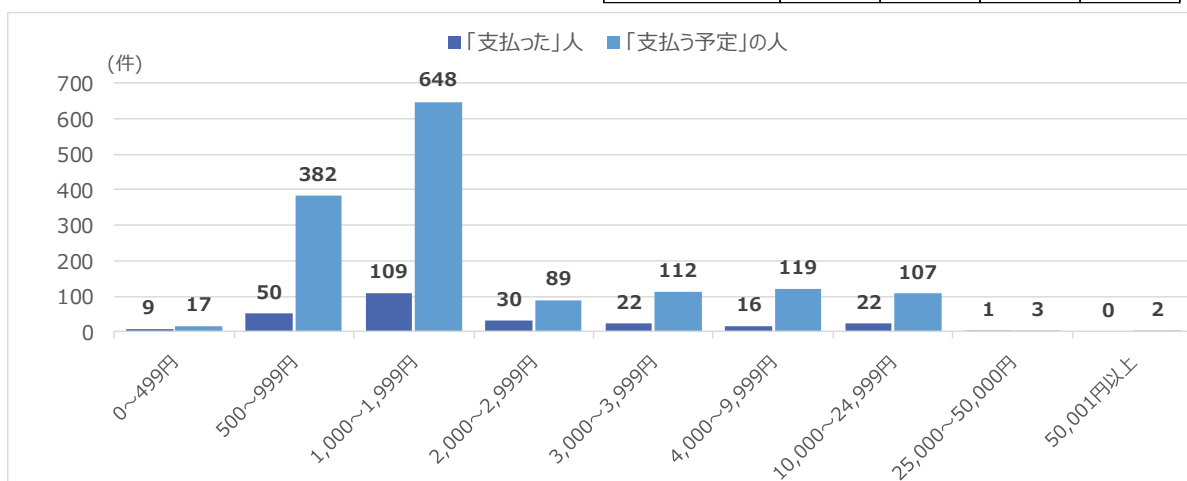
(4) 支払い額

- ・支払った人では、総額 62.7 万円、259 件、平均額 2,471 円となった。支払う予定の人では、総額 338.5 万円、1,479 件、平均額 2,289 円となった。
- ・金額帯を見ると、支払った人、支払う予定の人いずれも「1,000～1,999 円」が最も多く 4 割を占めた。
- ・支払う予定の人は、寄付金の支払い前にアンケートに回答している層であり、実際に支払った金額が支払い予定金額の回答と異なる可能性があることに留意する必要がある。

Q: お支払いいただいた金額をご記入ください。/お支払いいただく予定の金額をご記入ください。

	「支払った」人	「支払う予定」の人
総額 (円)	627,002	3,385,059
件数 (件)	259	1,479
平均 (円)	2,421	2,289
中央 (円)	1,000	1,000
最小 (円)	100	100
最大 (円)	50,000	100,000

	「支払った」人		「支払う予定」の人	
	件数	割合	件数	割合
0～499円	9	3.5%	17	1.1%
500～999円	50	19.3%	382	25.8%
1,000～1,999円	109	42.1%	648	43.8%
2,000～2,999円	30	11.6%	89	6.0%
3,000～3,999円	22	8.5%	112	7.6%
4,000～9,999円	16	6.2%	119	8.0%
10,000～24,999円	22	8.5%	107	7.2%
25,000～50,000円	1	0.4%	3	0.2%
50,001円以上	0	0.0%	2	0.1%
合計	259	100.0%	1,479	100.0%



<現状に対する認知度グループ別>

- ・ 支払い金額 (「支払った」金額、「支払う予定の金額」) の平均値は、「全て詳しく知っていた」が最も高く、3,225 円であった。

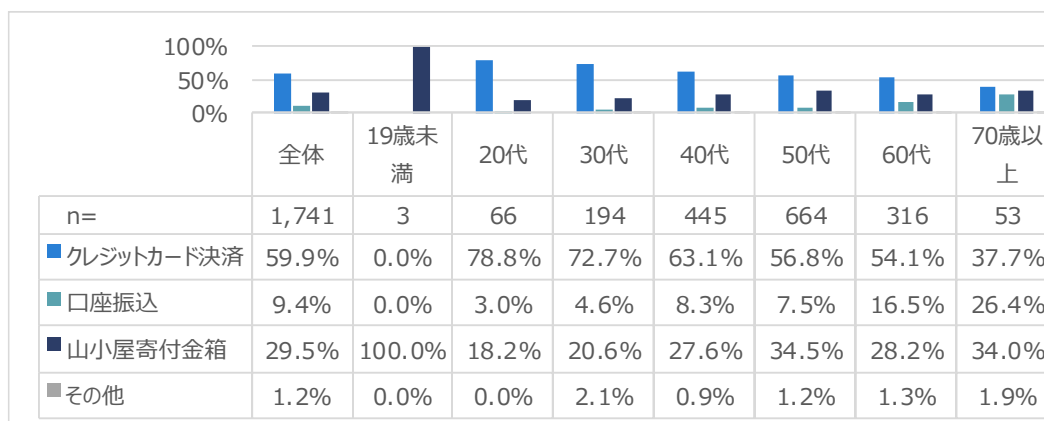
	全て詳しく知っていた	全て知っていた	一部知っていた	いずれも知らなかった
件数 (件)	121	918	737	324
平均値 (円)	3,225	2,293	2,362	1,789
最小値 (円)	500	100	100	100
最大値 (円)	20,000	100,000	100,000	50,000
中央値 (円)	1,000	1,000	1,000	1,000

(5) 支払い方法

- ・ 支払った人および支払う予定の人に支払い方法を尋ねると、「クレジットカード決済」(59.9%)、「山小屋寄付金箱」(29.5%)、「口座振込」(9.4%)の順となった。また、20代と30代では「クレジットカード決済」、50代と70代では「山小屋寄付金箱」が多い傾向が見られた。

Q：お支払いいただいた方法をお選びください。／お支払いいただく予定の方法をお選びください。(1つだけ)

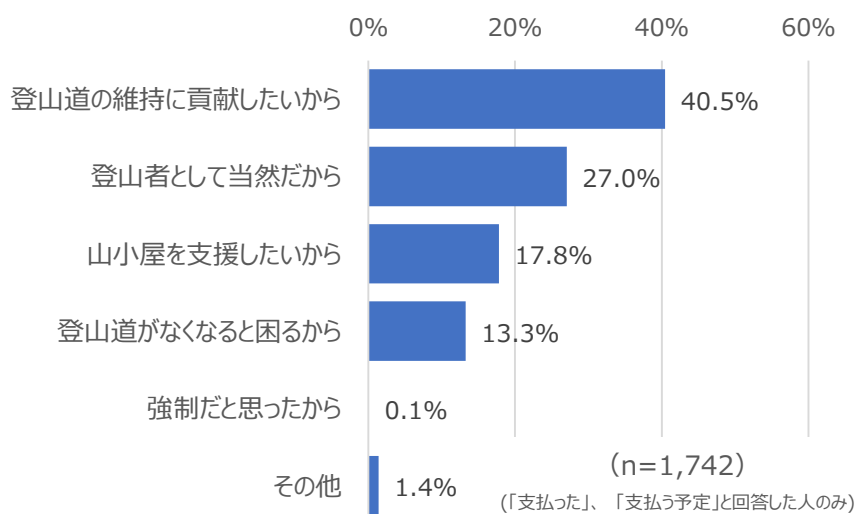
<「支払った」人および「支払う予定」の人>



(6) 支払い理由

- ・ 寄付金を支払った人および支払う予定の人に支払いの理由を尋ねると、「登山道の維持に貢献したいから」が**40.5%**と最も多かった。また、「登山者として当然だから」が27.0%、「強制だと思ったから」が0.1%となり、強制ではなく自主的に支払う姿勢が持たれたと考えられる。

Q：支払おうと思った1番の理由をお選びください。(1つだけ)



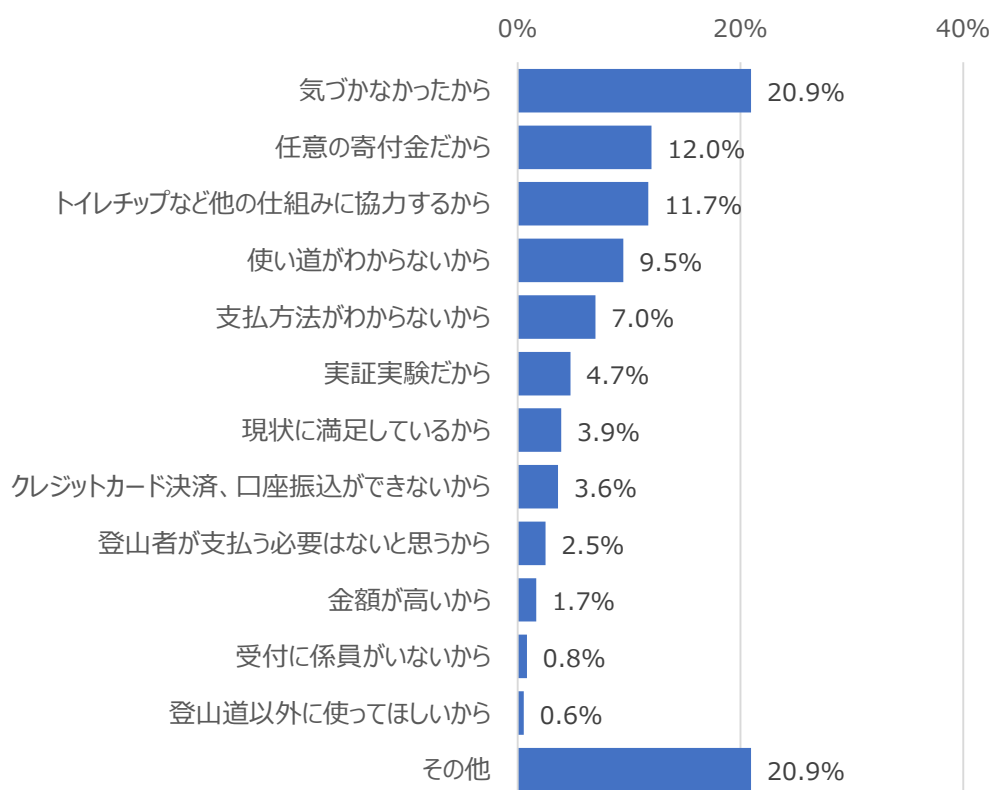
<支払い理由：「その他」自由回答>

カテゴリー	件	カテゴリー	件
安全に登山をしたいから	6	維持作業は大変と思うから	3
自然を守りたい、	4	感謝や御礼の気持ちから	3
必要なことだから	4	その他	4

(7) 支払わない理由

- ・ 寄付金を支払わなかった・支払うつもりはない人に支払わない理由を尋ねると、「気づかなかつたから」が **20.9%**と最も多く、「任意の寄付金だから」(12.0%)、「トイレチップなど他の仕組みに協力するから」(11.7%)が続いた。

Q：支払わない1番の理由をお選びください。(1つだけ)



(n=358)

(「支払わなかった・支払うつもりはない」と回答した人のみ)

<支払わない理由：「その他」自由回答>

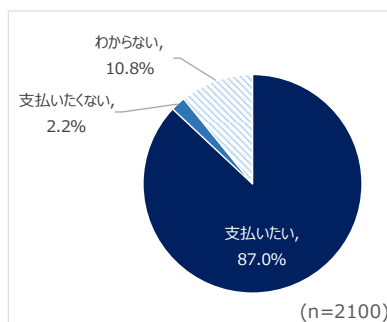
カテゴリー	件	カテゴリー	件
利用しないから	16	行政が管理すべきだから	6
寄付金ではない支払いの仕組みが良いから	13	よく分からないから	6
お金の余裕がないから、 寄付金以外の行動で協力するから	8	支払いが面倒だから	3
山小屋について、 ・収支が不明瞭だから ・宿泊料等が値上げされたから	6	地域が限定されているから	3
		その他	14

3. 今後、北アルプス南部地域で登山をする場合について

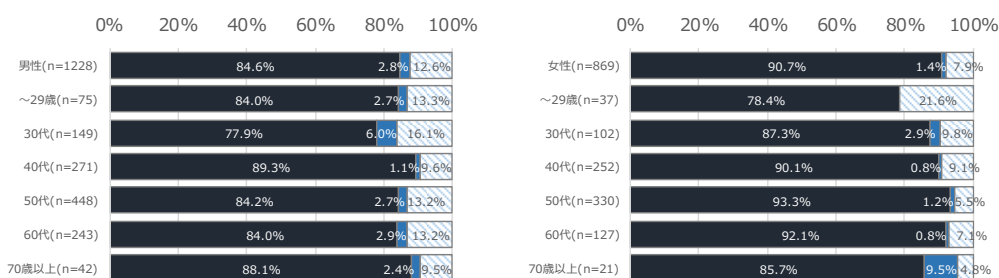
(1) 支払い意思

- ・今後、北アルプス南部地域で登山をする時に登山道維持のための寄付金を支払いたいかを尋ねると、「支払いたい」が **87.0%**、「支払いたくない」が **2.2%**となった。

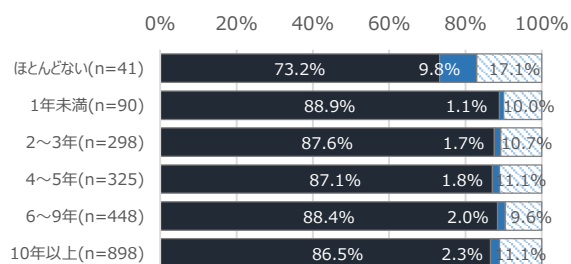
Q：今後、北アルプス南部地域で登山をする時、登山道維持のための寄付金を支払いたいと思いますか。(1つだけ)



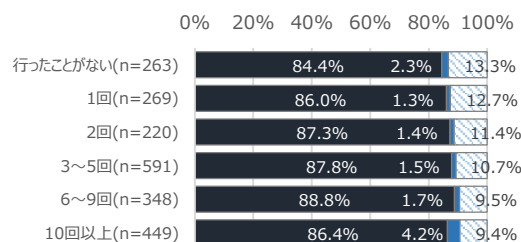
<性年代別>



<登山歴別>

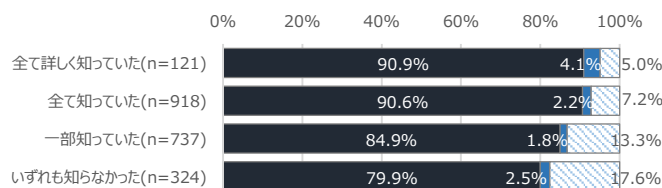


<槍穂高・常念山脈の登山経験別>



<現状に対する認知度グループ別>

- ・現状への認知度が高いほど「支払いたい」が高く、現状への認知度「低」では「わからない」が2割弱を占めた。



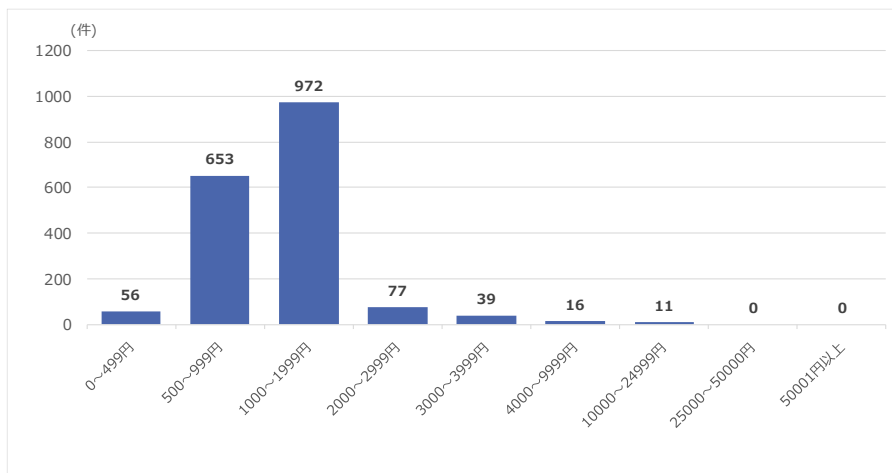
(2) 支払ってもよいと思う金額

- ・ 寄付金のために支払ってもよいと思う金額は、「1,000円」が **52.9%**と最も多く、次いで「500円」(35.7%) となった。

Q：今回は、一口 500 円のお支払いをお願いしていますが、導入や金額は関係者で検討しています。今後、あなたは、北アルプス南部地域で登山をする時、1人あたりいくら支払ってもよいと思いますか。

総額 (円)	1,777,053
件数 (件)	1,824
平均額 (円)	974
最小額 (円)	100
最大額 (円)	10,000

金額	(件)	(%)	金額帯	(件)	(%)
100円	20	1.1%	0~499円	56	3.1%
103円	1	0.1%			
200円	7	0.4%			
300円	27	1.5%			
350円	1	0.1%			
500円	651	35.7%	500~999円	653	35.8%
800円	2	0.1%	1000~1999円	972	53.3%
1000円	965	52.9%			
1500円	7	0.4%			
2000円	76	4.2%			
2500円	1	0.1%	2000~2999円	77	4.2%
3000円	39	2.1%	3000~3999円	39	2.1%
5000円	15	0.8%	4000~9999円	16	0.9%
6000円	1	0.1%	10000~24999円	11	0.6%
10000円	11	0.6%			
合計	1824	100.0%	合計	1824	100.0%



<現状に対する認知度グループ別>

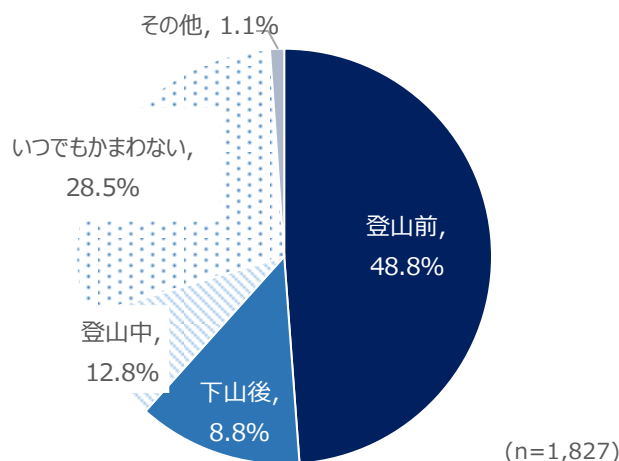
- ・ 現状への認知度が高いほど、支払ってもよいと思う金額の平均値が高く、「全て詳しくしっていた」では 1,000 円を超えた。

	全て詳しく知っていた	全て知っていた	一部知っていた	いずれも知らなかった
件数 (件)	121	918	737	324
平均値 (円)	1,168	1,002	933	904
最小値 (円)	500	100	100	100
最大値 (円)	10,000	10,000	10,000	10,000
中央値 (円)	1,000	1,000	1,000	1,000

(3) 支払いやすいタイミング

- ・ 寄付金を支払いやすいタイミングは、「登山前」が **48.8%**と約半数を占め、「いつでもかまわない」(28.5%)が続いた。

Q：今後、北アルプス南部地域で登山をする時、寄付金を支払いやすいタイミングをお選びください。(1つだけ)



(4) 支払いやすい方法

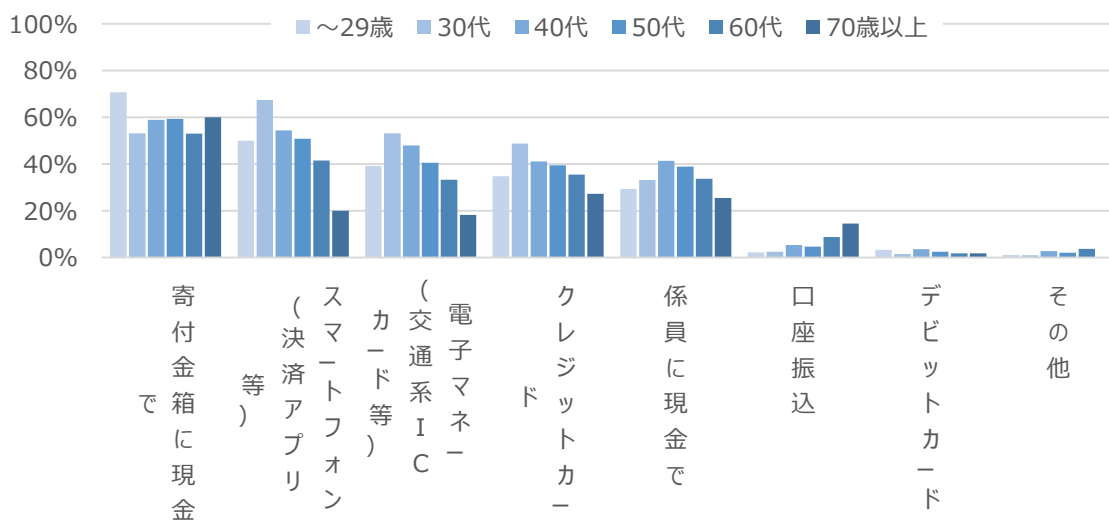
- ・ 寄付金を支払いやすい方法は、「寄付金箱に現金」で (**58.0%**)、「スマートフォン (決済アプリ)」(51.0%)、「電子マネー (交通系 IC)」(41.9%) が上位となった。実証実験で採用した「クレジットカード」は 39.6%、「口座振込」は 5.5%であった。

Q：今後、北アルプス南部地域で登山をする時、寄付金を支払いやすい方法をお選びください。(いくつでも)

	全体 (n=1,827)	登山前 (n=892)	登山中 (n=234)	下山後 (n=160)	いつでも (n=521)	その他 (n=20)
寄付金箱に現金で	58.0%	55.8%	76.9%	46.9%	57.8%	25.0%
スマートフォン (決済アプリ)	51.0%	52.8%	34.6%	51.9%	55.7%	30.0%
電子マネー (交通系 IC)	41.9%	40.8%	30.8%	42.5%	48.9%	30.0%
クレジットカード	39.6%	33.4%	25.2%	45.0%	54.7%	50.0%
係員に現金で	37.1%	46.1%	31.6%	28.8%	27.1%	25.0%
口座振込	5.5%	3.5%	2.6%	6.9%	9.4%	15.0%
デビットカード	2.6%	1.8%	1.7%	1.9%	4.6%	0.0%
その他	2.3%	2.5%	1.3%	1.3%	1.9%	25.0%

<年代別>

- ・支払いやすい方法を年代別で見ると、「寄付金箱に現金」はいずれの年代でも約5割～6割が選択し、年代間の差も少なかった。「スマートフォン」、「電子マネー」、「クレジットカード」という非接触型やオンライン型の決済は30代が最も高く、そこから年代が上がるにつれ低くなった。「口座振込」は年代が上がるほど高い傾向が見られた。



4. 北アルプストレイルプログラム（仮）に対する意見・感想（自由回答）

(1) 概要

背景と目的		負担金の種類		名称	
賛成・応援の声	約431件	強制・入山料・協力金	約287件	北アルプストレイルプログラムが分かりにくい	約3件
疑問の声	約4件	既存料金への上乗せ	約27件		
寄付以外の協力について	約63件	クラウドファンディング	約12件		
行政への要望・公的資金について	約70件	ふるさと納税	約10件		
山小屋への応援	約14件	寄付金(肯定的)	約45件	使途事業	
山小屋運営について	約39件	寄付金(要望・改善点)	約10件	肯定的(登山道維持への充当)	約44件
登山道等の整備水準について	約15件	グッズ販売など	約7件	その他の使途への要望	約25件
		会員制	約4件		
		その他	約11件		
実施体制		対象		収受方法	
肯定的意見	約1件	対象地域(エリア拡大への要望等)	約32件	収受の場所	約78件
透明性・管理体制への要望・懸念	約14件	対象期間(期間延長への要望等)	約10件	支払い方法	約77件
		対象者 (登山者全員負担への要望等)	約38件		
金額設定		情報発信		その他	
肯定的(一口500円)	約18件	取組の周知	約97件	記念品・特典	約38件
その他の金額設定への意見	約64件	取組の結果報告	約30件	アンケート	約12件
		登山文化・登山のあり方・マナー	約50件	その他	約18件

(2) 詳細

背景と目的: 賛成・応援の声

大好きな日本アルプス(北ア南部に限らず)の山小屋さんは、ヘリの問題を恒常的に抱えていますが、その上コロナに苦しめられています。安全に山行を楽しむためにも、是非とも出来る範囲の支援には協力したいと思います。

登山者が登山道整備について考える、とても良いきっかけになると思います。

単に登山道だけのことでなく、登山に係る全てのことに対するこれまでのご尽力に深く感謝致します。そういう何というか知られざるお取組・ご努力の上に私たちの安全快適な登山が、下山後、こんなにもたくさん、SNS等で楽しく振り返ることが出来る山行の思い出が、成り立っているんだと思います。そして、それは環境保護という面も含めて、正に未来への登山、北アルプスの未来へつながっていくんだと思います。どうかこれからも登山を続けさせてください。

恒久的なシステムを立ち上げてください！ 賛同者が広く支援できる体制をお願いします

毎年このエリアに行かせてもらい、安全に登山できる事を本当に感謝していました。このプログラムに賛同します。

登山者として、当然のことだと思いましたが、支援したいと考えていました。なかなか都合が合わず、登山に行けませんが、美しい自然を守るためにも、登山者がこの美しさを伝えていくためにも、応援しています。そちらは行かなくても支援の手段を用意していただき、ありがとうございました。

山小屋関係者の登山道維持をはじめ災害時等、日頃の活動に感謝いたします。北アルプス南部地域の今回の取り組みを支援します。頑張ってください。

山小屋経営者救援のみならず登山に関わるすべてのみなさま。このコロナ禍において、登山道の整備、救援活動、物資輸送など感染防止対策へ様々な取り組みを実施いただき感謝申し上げます。先日、テレビで支援金の取り組みを扱った番組を見ました。今まで個人任せだったことの対して、東京への寄付などの取り組みは後ほど。

YouTube で、山小屋にヘリが来なくなる事を知りました。登山初心者ですが、今後の人生の楽しみを見つけたので、これからも誰もが安全に憧れの北アルプス目指せるように、皆んなの力を併せる必要があると思います。

登山者自身が登山道を守ろうとする意識が必要ですね。

登山道整備は安全な登山に欠かせない。様々な方面からの支援必要と感じます。直接お手伝いの機会があれば参加したい。整備する企画が小屋の負担にならないようにと思います。また、この動きが北アルプス以外にも広がると良いと感じました。

登山を初めて7年。多くの喜びを与えて貰いました。しかし多くの危険も知る様になりました。今も山を楽しめているのは地方自治体と山小屋の方のお陰だと思っています。そしてコロナ禍で改めて山の持つ価値を考える様になりました。今後も山を多くの人が楽しめる様に自分自身も取り組みたいと思いました。

これからも登山道、山小屋が後世にまで存続できるように登山者やその関係者が力を合わせ支援し続けていく事が大切な一歩だと思います。応援しています。

山小屋の方々のたゆまぬ努力のおかげで安全に登山を楽しめることに常々感謝しています。大好きな北アルプス南部の地域の登

山道が永久に維持されることを切に願っています。山小屋泊は安心安全で本当に助かっています。他の山域に比べて美味しい食事や楽しい山小屋グッズの販売もして下さって、そのサービス精神をいつもありがたく思います。これからも毎年、登山できますよう、よろしく願います。

今回中房温泉から燕岳の山行で、登山道がきちんと整備されていて、大変歩きやすかったため、安心して登山を楽しむことが出来ました。今後自分にも出来る範囲で登山道維持の取り組みに少しでも参加する事が出来ればと思います。今回この様な問題を知るきっかけを与えて下さりありがとうございました

今まで知らなかったことが残念です。NHKの山カフェの放送で知りました。早速、参加させていただきました。山仲間にも伝えまします。山小屋の方の活動に感謝すると共に、今後も登山道・山小屋維持にご協力できることがあれば参加させていただきたいと思ひます。

国立公園なので自治体主導で整備されているものと思っていました。もっと多くの人に知っていただきたいですし持続可能な活動になれるといいですね。

登山道のみならず山小屋の運営等、安全に安心して登山が楽しめるのは、山小屋の皆様のおかげです。コロナ禍がトリガーだったかもしれませんが、登山の際には受益者(登山者)が一定の金銭負担をするのは当然のことではないかと思ひます。

国立公園にありながら登山環境整備のほとんどを、山小屋に依存していることを知り驚きです。当座の問題点に対処するため寄付することに賛同しますが、人生に喜びをもたらしてくれる自然環境の保護のため、大胆な改革も必要かと思ひます。山小屋経営者の皆さんのこれまでの働きに、心から感謝いたします。

山小屋の方から、登山道維持が苦境に立たされていることを聞き、自分にも何かできることがないか考えていました。直接的に山小屋に寄付をするということは難しく、このような取り組みがあることを知り、良い機会だと思ひ寄付をさせていただきました。これからも北アルプスに登山に行きたいという希望があり、そのために登山道の維持は必要なことだと考えており、この取組が一層拡大することを期待します。

背景と目的:疑問の声

様々な資料を拝読しましたが、今ひとつ山小屋が登山道整備に尽力せねばならないのか…が経緯も含めよくわかりません。そうした歴史や制度上の事を詳らかにする必要は有と感じます。また、中部山岳地域に特化した取り組みの様ですが、一部の山域に限定せず他地域での同時実証が何故行えないのか…も疑問が残ります。登山道整備の大変さは十分に承知しているつもりで居りますが、様々な内情を知る為にも、利用者がボランティア等で参加出来る取り組みを進めて頂く方が、様々な意見や考えを知る機会にもなるかと思ひます。是非とも、中部山岳地域に限らず、全国展開での自然と触れ合うことや、登山道整備に対する理解を広めていって頂きたいものだと思います。そうした取組には積極的に参加したいと考えています。

すでに山小屋宿泊・テント泊費が値上げされており、コロナが収束しても元には戻さないはず。寄付が必要な説明が不十分。

背景と目的:寄付以外の協力について

登山する人が協力できることが募金以外にもあれば教えてほしい。協力したらポイントがたまるなどをすると参加人数も増えるのではないかと思ふ。

今後、登山道整備のボランティアツアーを主催して頂きたいです。当然、参加します。

近年の年々激化する気象状況(大雨、台風等)から、登山道崩壊のスピードが加速すると思われまします。継続的な維持が必要になると思ふので、食事と宿泊場所だけ提供していただけるボランティア体制を整備し、年間通じて、補修を続ける仕組みづくりなども検討の価値があるのではないかと思ひます。山小屋の方たちだけでは、維持は難しいと思ひます。乗鞍の平湯新道のようなイメージですが、ボランティアによる整備も継続しないと道が荒廃します。

お金がある人、時間がある人、どちらの登山愛好家にも山への気持ちを具現化できる手段・プログラムなどがあればベストだと思ふ。(寄付やワークショップなど)

素人に登山道整備等の実作業はさせない方がよい

山の現状や環境について学びながら出来るボランティアがあれば参加したい

山荘間に火箸を置いてたら、それを使って登山道のゴミを拾いながら次の山荘まで歩きたいです

寄付金以外の形で協力できれば良いと思ふ。歩荷協力など。

簡単に出来る事を登山者が心掛ける。例えば、通りがかりに単独で転がっている小石や木の枝等を安全な場所に移動したり、危険箇所を即座に連絡したり…発見した者が行く。後続者の事故防止と簡単に出来ることを登山者も行い、整備される方への負担を軽減する。

ゴミはほとんど落ちていないが、ボランティアで登山道でゴミを拾った場合に、バスや電車で自宅まで持ち帰るのは辛い。拾ったゴミは、ビジターセンターなどで回収してもらえないだろうか?

背景と目的:行政への要望・公的資金について

継続的に維持費用を確保する仕組みが必要と痛感します。民間の努力やある意味犠牲性では継続性に課題が残る為、山岳での歩道整備を全国的な行政上の対象とする法的枠組みが必要かも知れまします。英国の footpath を支えている仕組みなど参考出来るかも知れまします。

山小屋や登山者が全ての登山道の管理負担を負うのは間違いです。観光利益を得ている地域行政が全て担うべきです。また、自然、動植物、水資源などを管理するという観点からすれば、県や国が補填すべきことだと思ひます。

受益者負担…という考え方もあるが、「国立公園」と名乗る以上)本来であれば「国」が金を出して維持管理をすべきこと。海浜の場合もそうだけ「受益者負担」と言って利用者から金をとることは馴染まないも考ふる。また一方で「善意」に頼った金集めにも限界もあれば、失速必至。やはり、やや行政に積極的に働きかけをすべき案件なのかも。

外国では国立公園などの管理にもっと国費を使っていると聞きます。日本でも、貴重な自然環境の維持保全に、もっと国として、

国民を巻き込んで取り組むべきだと思います。山小屋の善意に頼ってばかりではいけないと思います。

登山者など個人レベルで保護、維持への意識を持つことは最も重要だが、ニュージーランドのように日本も政府のより積極的な関与が必要と考えます。その足掛かりになるようなプログラムとなることを願います。

自然公園法では、国立公園事業は国が執行するものと定められており、本来、登山道整備の費用は環境省が支出すべきものである。地域性国立公園という事情、山小屋がある意味での「受益者」となってきたことから山小屋が登山道整備を担ってきたのは理解できるが、この苦境でさらなる負担が必要となった時に登山者に負担を求めるのは違うと感じる。国立公園には環境省が指定しているわけだから、やはり環境省が財務省を外国人誘致等の名目をもって説得し概算要求を通すのが先ではないのか。国からも予算を増やします、だから登山者の皆様もご協力お願いします、なら分かる。また、都道府県立自然公園等に指定されていない百名山等で「北アルプストレイルプログラム(仮)」のようなことを言うのなら理解する。事業主体がおらず、地権者だけで管理するのは大変なのを理解できるからだ。環境省が現状やろうとしていることは、ずっと続いてきたトレチップ・環境保全をちゃんとしようとする登山者の良識に付け込んでいようようにどうしても見える。おそらくは大半の方が賛成し、協力するとは思いますが、それは国立公園の制度がどんなものであるか、自然公園法になにかがかけられているかを知らないが故という部分は大きいと思う。

背景と目的: 山小屋への応援

以前、ハケ岳の山小屋で登山道維持の苦勞を聞きました。またテレビで山小屋の採算が取れないために休業、登山道が荒廃しているのを見ました。山小屋の維持、環境保全、登山者が安心して登山できるためにも登山者皆が負担すればいい。良い取り組みだと思います。

登山道維持のためにも、山小屋存続のためにも可能な限り支援したいと思います。よろしく願います。

今回のアンケートの前からコロナ禍の中の山小屋経営維持は大丈夫か心配していたし、どの山でも登山道が整備されていることにいつも「誰がしてくださっているんだろう」と感謝していました。登山初心者ですが自分にできることがあれば、是非協力させてほしいと思っています。

背景と目的: 山小屋運営について

今回の取り組みには、賛成ですが最近の山小屋は設備投資に重きを置き経営に支障をきたしているように思います。宿泊料金も値上げされ私のような低所得者には小屋泊まりはできなくなってしまいました。物資の搬送関係もありますが立山・室堂との比較もしてほしいです。登山道維持の名目より入山料を徴収すればいいですか？

一部の山小屋の方は、山小屋が登山道を補修している、レスキューをしていると言ったことを過度に誇るような話をされるのが、かえって反発をまねいていると思います。プライドを持って謙虚に話をして頂けると、皆尊敬を持って山小屋の方と接することが出来ると思います。オーバーユースの問題も解決すべきことです。コロナをキッカケに、過去のような詰め込みの人数があつて成り立つような経営計画は止めにして、定員どおり泊めて、収支が黒字になるよう考えて欲しいです。

一部の山小屋での対応の悪さが目にたまらものがあるため、登山中の寄付行動に影響すると思う。だからあえて山行中の寄付行動を選ぶ。

コロナ後も山荘の完全予約は続けてほしい(定員は戻して) すし詰め状態は嫌なの定員で山荘が経営で出来るようにしていただきたい。登山道は山荘が所有しているわけではないので、行政が管理すべき。屋久島のように入山料を取る仕組みを構築すればいいのではないかと？

北アルプスに限らず安定的に登山道を維持は自然や、国土を守るのに必要なことなので、山小屋をしながら登山道の整備をしている方々を特別国家公務員を兼ねてもらって資金面の心配なく活動を継続してほしい。また、毎月、毎年のような定期寄付のプログラムを創設し持続可能にする。

山小屋のコロナ対策が過剰になっている。歯磨き禁止など何の予防効果があるのかと思う(医療関係者として)。こういうことが山小屋利用を控えてしまうのではないかと。雷鳥の保護や登山道の整備には頭が下がる思いですので、入山時のバスなどに上乗せして料金を取るべきだと思います。寄付金なんて甘い考えはやめて全員から小額を取る様にした方がよいと思います。難しい問題ですね。宿泊料や幕営料も上がっているが、さらに登山道の整備費用と言うのが今ひとつ腹落ちしない気はします。そもそもこれまでは宿泊料及び幕営料で対応していただけに、突然、整備料のみを分離されても…と感じています。

背景と目的: 登山道等の整備水準について

北アルプス南部地域は登山者が多く、登山道も高い水準で整備されていて、関係の皆さんの負担も大きいものと思います。しかしながら、他に目を向ければそもそも有人小屋がほとんどないような山域も珍しくなく、そういうところでも登山道はそれなりに維持されています。大阪に住んでいますので大峰山脈方面によく出かけますが、台風などで道が荒れると行政の手が差し伸べられるまで簡単な仮復旧でしのぐこともよくありますが、それでも道がなくなって登山できないというようなことはありません。サブルート的な脇道が整備の手が入らず自然にすたれるようなことはありますが…。日々登山者の安全確保に苦心されている皆さんにこういうことを言うのもどうかと思いますが、この際、手元にあるバジェットでできる範囲の整備にとどめるというのも選択肢ではないでしょうか。他の山域に比べ、いささか過剰整備の傾向もあると思います。ある程度なれた登山者のみが入れる山域であってもかまわないのではないのでしょうか。親切すぎる整備が未熟な登山者をよびこみ、ますます「過保護」な過剰整備が必要になってくる…ということはありませんか。ラフな道にすることで自然に登山者数を抑えることは、自然保護やオーバーユースの問題の解決にもつながると思います。小屋の経営にはマイナスかも知れませんが…。くれぐれも「入山料を取る」「入山そのものを予約制にする」などといった方向の解決に走らないでください。山は自然のもので、誰のものでもありません。お金を生み出すためのものでもありません。山をテーマパークにはしてほしくないのです。

自然と向き合うために自己研鑽するのが登山であり、登山者を呼び込むために登山道を過剰に整備するのは登山本来の楽しみを損なうと思います。登山道や周辺アクセスに関する情報を登山者が取得しやすくなるような取り組みを充実すれば良いと思います。

北アルプスは、相応のスキルを持った人が目指す場所であり、今のように多額の資金を使つての過剰な整備は不要と考えます。大多数の人が安全に通過できるレベルまで整備し、観光地化させて来訪・宿泊の需要を喚起するのであれば、費用を受益者の山小屋が持ち出して負担するのは当然だと考えます。それが資金的に成り立たないのであれば、ビジネスモデルとして考え直すべきところにきているのではないのでしょうか。

登山道は山小屋の考え方によって整備程度が大きく違っているように思うが、このプログラムで一定のレベルになる事を期待する。死亡事故につながるような場所の整備基準があれば良いと思う。

・入山料を徴収しても良い。

・各県単位のグレーディング表をエリア単位で統合し、難易度がルート、季節、荷重、年齢などの“変動因子”でどう違ってしまいかを分かりやすく示してほしい。これには「コース定数」の記載も一案であるが、“変動因子”による数値の振れ幅も明示することが必須と考える。

・登山系WEBに対し次を指導（要請？）していただきたい。 >所要時間の根拠明示、およびサイトごとの時間差異の低減努力。

>所要時間における“変動因子”と、それによる所用時間の振れ幅の明示。

あまり立派過ぎる登山道は要らないと思います。これからも維持管理よろしくをお願いします。

負担金の種類：強制・入山料・協力金【約 287 件】

入山料は義務化してもよいと思います。

入山料金 利用料金等を徴収するべきだと思います。登山道が整えば快適に安全に利用できて結果、利用者に還元されるのだから。むしろ無料で設備施設を利用できる。という考え方の方が不自然ではないかと。 サービス、安全、快適 には必ず料金が発生する。という意識が日本人は低いと思います。寄付という形ではなく利用者が利用料金を支払う。という形が望ましいと思います。

寄付でもいいですが、1 回で終わってしまうのでは？登山道使用料として、登る度に登る人皆から 100 円でも払ってもらってもいいのでは。その方が集金額は増えるのでは？

寄付金ではなく、登山そのものをレジャーとして考え、入山料（参加費用）として定期的な収入を得る方がある程度、金額が読めるのではないのでしょうか。

寄付ではなく強制にしてはいかがでしょうか

富士山のように、入山料を支払うシステムを作ればよいとおもう。

登山者の善意に任せるのではなく、強制的に入山料として徴収した方がよいと思います。

寄付金ではなく、入山料であればよろこんで払う。

維持費はこのエリアだけでなく必要だと感じます。善意の寄付金ではなく、一律の入山料とし、不公平感のない事を希望します。善意の寄付金の場合、払わない人に対して、悪意を感じます。富士山入山料も同じ事でしょう。川釣りの遊漁券の事情なども参考にされてはどうでしょうか。

メインルートの入山料制を強く勧めます。

海外のように登山者から入山料として徴収し、入山者数もある程度管理制限できれば良いと思います。

入山料を義務化する必要がある。トイレについても有料化にしていいたいと思う。山小屋や、トイレがなくなると困る。

なんでもお金がかかる時代に山に入るのに入山料を取らない事がおかしいと思う。山道整備にどれだけの時間と人権がかかっているかは誰もが周知の範囲です。是非

寄付（任意）は面倒、徴収（強制）には従うのは日本人の気質にあっているので、入山料導入を進めて下さい。美しい景色を見せられているのだから。

登山道の有料化を是非実施して欲しいです。寄付ではなく登山者が利用する道で、その道を修理するんですから強制的にお金を集めて当然だと思います。

入山料として義務化したほうが不公平感がなくていいと思う。各山小屋に募金箱が置いてあったけれど募金してる人と全く無関心な人がいた。後、今年 1 泊 13000 円と値上げされたがそれは登山道の整備に当てられるからとっていたので募金を強制されるのはちょっと疑問にも感じた。

登山道は完全に有料で良いと思います。

寄付や善意に頼る仕組みはサステナブルではないのではないかと？ 将来に不安を感じる。

負担金の種類：既存料金への上乗せ【約 27 件】

登山道維持に関する資金の確保について、このような寄付によることも方法でしょうが、山小屋泊やテント泊の際の利用料金に上乗せをして徴収することも必要なのではないのでしょうか。ある意味、受益者（利用者）負担という考え方を真剣に検討すべきタイミングなのではないかと思ひます。

いつまでもこの登山環境を維持するために登山者全員で金銭的なものも含めて協力するべきだわと思います。宿泊費またはテント場代に一定金額上乗せて回収でもいいのではないのでしょうか。

泊まりの人には、小屋代、テント場代に登山道整備代として上乗せしても良いと思う。

テント設営料金、山小屋宿泊料金に 2000 円程度上乗せすべき。

山小屋泊やテント泊の代金に強制的に、登山道の整備費用分を一定金額加算するのが良いと思います。

バス代、タクシー代、ロープウェイ代、駐車料金などで入山者全員から「入山料」として薄く広く徴収すれば良いのでは？

宿泊料やテント設営料、飲食代等を含めてある程度、税金のような形で費用を負担する様にしたほうが良いかなと思います

横尾山荘の看板で知りました。寄付金だとハードルが高いのでテント泊代や山小屋泊代に上乗せするような形で実施してみてもいいでしょうか。

負担金の種類:クラウドファンディング【約 12 件】

受益者負担の観点から、建てられたものと思いますが、半ば、強制的に請求されることに反対する人もいますかと思えます。寄進もしくは、クラウドファンディングのような簡単な返礼品を返す方法が良いと考えます。また、アンケートですが、現役で活動されている方を対象とされているようになっていますが、離れた人にも賛同する人が、多数いることも考慮していただければと考えます。

受益者負担の観点から、建てられたものと思いますが、半ば、強制的に請求されることに反対する人もいますかと思えます。寄進もしくは、クラウドファンディングのような簡単な返礼品を返す方法が良いと考えます。また、アンケートですが、現役で活動されている方を対象とされているようになっていますが、離れた人にも賛同する人が、多数いることも考慮していただければと考えます。

入山料を徴収しても良いと思う。クラウドファンディング等で資金を集めて、山小屋の整備(トイレ、シャワー、ソーシャルディスタンスなど)をして、快適性などの付加価値を上げて入山料とのバランスを取る。トイレ利用料が現金ではなく、バーコード決済が利用できる様にして荷物が減らせるなど、快適性を上げる。

とても良いと活動だと思います。ただ、活動の認知度が低いのかな?と感じています。私も登山当日にカードを頂き、初めて知りました。【北アルプスクラブ】ではないですが、直近の財政難を乗り越える為にはクラウドファンディングで資金を募りながら、継続的に資金を集める事が出来る仕組みを作り上げたいですね。登山客はみな【登山道を維持して欲しい】という気持ちは持っているはずですが、【誰かがやってくれるからそれで良い】と思う部分は少なからずあると思います。人ですから、自身の直接的な利益に繋がらないと行動に移せない人も多かろうと思います。サブスク型の様に定期的に資金を募りつつ、何かしらのサービスを提供する形でキックバックする事も頭をよぎったのですが、サービスの内容次第では、そのサービスを提供する為の費用が重荷となり、本来の目的である【登山道の維持】が達成出来なくなる可能性も孕んでいるなと思います。是非、私も一緒に考えさせて頂きたいですが、【登山客から】資金を集める前提ですと、資金調達可能な母数がそもそも少ないのかな?と思います。(念願の登山客数を正しく理解していないまま回答しているので、足りているという事であれば申し訳ありません。)なので、登山客以外にも【登山道維持】の必要性を理解して頂き、幅広い方から資金を調達出来る取組みに昇華出来るといいなと思いました。企業の CSR 室から資金を調達しつつ、企業の CSR 活動報告として SNS などで告知するのもありかもしれませんね。また、著名人で登山ファンも多いので告知して頂くのも良いかもしれません。この様な活動であれば、費用掛らず取り組んで頂ける方も多いと思います。

負担金の種類:ふるさと納税【約 10 件】

他の山域では、ふるさと納税を使った登山道整備をしているところもあるのですが、どうなのでしょう?

ふるさと納税の制度の活用が良いかと。寄付もしやすいので

私は、少額ではありますが、ここ何年か、ふるさと納税の仕組みの中で、長野県への寄付をしております。そのふるさと納税の仕組みの中で、用途指定の中で、他の目的とやや一緒になってくりとしては大きめなのですが、登山道維持というものがある、そちらを指定しています。この長野県へのふるさと納税での実際の資金配分はどのようになっているのかというのは、以前から気になっていました。受益者負担という意味では、いくらかを登山者が寄付するのによいと思うのですが、ふるさと納税の仕組みを使って、長野県・松本市・安曇野市などで、資金使途を「登山道整備」に絞った選択項目をつくり、整備費用の一助にするというのはいかがでしょうか。

登山道の管理主体がどこののか正確に理解していませんが、ふるさと納税の活用は考えていいと思う。ただ寄付金が本来の目的に最大限活かされるよう、クラウドファンディングも含め手数料の割合には十分注意してもらいたい。

負担金の種類:寄付金(肯定的意見)【約 45 件】

完璧に整備された登山道を利用させていただくのですから寄付金は積極的に集めて問題ないと考えます。

寄付は大いに賛同しますが、用途がわかりやすく透明である事を望みます。

寄付を募るのはなんにもおかしくないので推進すればいいと思います。

多額の寄付はできないが少しずつコツコツとなら出来そう。

ワンコインの寄付で登山を気持ち良くさせていただけるって良いお考えだと思います。他の山でも実践して頂きたいです

負担金の種類:寄付金(要望・改善点)【約 10 件】

昔と比べ登山者の数は恐ろしく増加しています、体感的には 10 倍以上、かつ初心者が上級レベルの山へ入山しているの、危険なので、山に行きたくない。寄付金集めは、金もうけにしか見えない。

人手を掛けないと登山道は維持できないと誰でも理解してると思えます。もっと情宣して、また寄付を税額控除できるようになれば、もっと寄付は集まると思えます。

寄付金控除が使えれば寄付しやすくなると思います。そもそも、国立公園なのに民間委託で成り立っているのはおかしな話です。メジャーな登山口は入山料を徴収すべきです。入山料や登山道維持費に関して、オンラインで寄付して、例えば登山当日に登山口で寄付金証明をスマホで提示できるように出来れば尚良いと思います。利用者負担なので公平性がある方法と考えます。

寄付金だと曖昧さや不平等さという意味から違和感があります。明確に入山料という形で保険と入山届とセットで徴収の方がスッキリします。一律ではなくオーバーユースを分散させるために時期によって金額を変えとか。

負担金の種類:グッズ販売【約 7 件】

北アルプスのブランド力を活かして、グッズ イベント、特典(縦走特典)で利益を出して 登山道整備費用に充填する。

このような取り組みには大いに賛成です。コロナで山小屋の経営が厳しくなっていることは知っていて、何かしたいけど、方法や効果などが分からなかったの、山に行ったときにはできるだけ山小屋でグッズなどを購入して少しでも足しになればと思っていました。実際に現地に行けなくても何か支援したいと思っている人はいると思うので、全国どこにいても支援できるいいなと思います。ただ、寄付金と言われると正直なんかハードルが高く感じます。例えば全国展開している企業とタッグを組んで、寄付付きグッ

ズを販売したり、登山道整備ツアーを組んだりなど、参加しやすい方法を整えていただけるとありがたいです。大好きな山を守るために自分にもできることはぜひやっていきたいと思っておりますので、ご検討よろしく申し上げます。

まず、なぜ今回は南部地域なのかの説明文を入れてください。北アルプスは登山者はもちろんですが、上高地や乗鞍など観光客の協力金も必要で、観光客からも寄付金集められるシステムが実現すれば、日本全国の山に関わる経費問題の解決に光がさしてきます。富士山みたく現地登山口の個別の寄付金徴収だと人件費や受付時間や対面でコロナ禍に合わないなど、この際、画期的に強制かつ自動的に徴収すべきです。また、アウトドアメーカーやアパレルも巻き込んでください。キャンプブームもあり、北アルプスの一部地域の寄付金だけでなく、日本全国の今後のアウトドアの在り方を問う寄付金システムに昇華させたい。メーカーの洋服やテントに寄付金名義で1000円上乗せして販売してもらおうか。絶対普段の生活の延長上の方が支払い手段やタイミングといい、絶対払うと思います。登山口だけの原始的な従来の寄付金徴収だけに終わるのだけは絶対にやめてください。

寄付を含んだ、少し値段の高い記念グッズなどの販売があると良い。個人的には山小屋応援として、山行のたびにTシャツや手ぬぐい、バッジなど購入するようにしている。

負担金の種類:会員制【約4件】

登山道維持の寄付には賛成です。入山時に500円の寄付も良いですが、今後入山料を払ったりトイレのチップを払ったりと負担が増えてくると少し抵抗が有るかもしれません。アイデアとして会員制度も作ってはどうか?(日赤活動資金のような)年一回1000円以上の寄付で会員になって、バッジかなにかをいただいて、登山道の不備や危険箇所情報を提供するなど、自分が山と関わっている実感が持てると、山好きとしては楽しく寄付ができると思います。山小屋一泊100円引き等有るともっと良いです。何かの参考にしていただけると有り難いです。

都度支払いだけでなく年間パスポートのような制度もご検討ください。年度毎のステッカーとかタグ発行でザックに付けられれば尚いいです。

負担金の種類:その他【約11件】

登山道維持基金を作りたい。

入山料金を全ての人に取った方が良くと思います。山保存に協力している方には資格を与えて入山料金を免除にするなどメリハリを付ける制度が良いのでは。

Twitterが導入する投げ銭機能の活用!

寄付金をもっと身近で当たり前の様にして頂けたらと。YAMAPと提携していつでも寄付が出来る様に、して欲しいです。

名称:北アルプストレイルプログラムが分かりにくい【約3件】

上高地から横尾道中で何度かアンケートのご案内を受けましたが、道中はその時間はありませんでした。また涸沢には電波もない!下山中にもご案内を受けましたが、結局アンケートに関して詳細を見たのは上高地発のバス車内でした。トレイルプログラム?のようなパッとみた瞬間に内容が入ってこないネーミングで関心も正直薄かったです。仮に寄付のお願いなどといった直接的であれば寄付も少額であれば現地で協力していたように思います。いつも快適な登山道のおかげで楽しい山行をすることができています。また、登山道整備のボランティアなども興味があるので、これからの登山道整備の新しい枠組みに期待しております。

北アルプストレイルプログラムという名前が、少しわかりにくいと思いました。山小屋さん、いつもありがとうございます。登山道整備、必要なことですし、いのちに直結するおしごとには十分な支援を受けられていない現状はなんとかしなくてはならないです。

仮称なので変わるとは思いますが、「北アルプストレイルプログラム」が何かのかすぐには分からなかった。寄付を求めるとすぐに分かるような名称にした方が理解が得られると思う。読んだ最後に「結局は金払え」ってことかとなると感じ悪いです。通行料のように一律100円とかにしてもいいと思う。Visaデビットで寄付しようとしたらエラーで出来なかったので改善してほしい。

使途事業:肯定的意見(登山道維持への充当)【約44件】

登山道維持は、登山者にとって安心して歩くための必要不可欠なことです。山小屋の方の日々の努力があってこそですので、そのための協力は当然だと思います

登山道の整備の費用を登山者が負担するのは当たり前のことですし、この取り組みが持続することを願います。

何に使われるかわからない募金は不安がありますが、信頼を置ける山小屋が主体として発信をいただくと、危機感もよく伝わります。整備された登山道は有料であるべきだと思います。いつも申し訳ないと思っています。安全と安心には対価を払う姿勢でいます。

登山道維持のための費用負担は当然だと思います。

登山道整備についてのご苦勞は、よく耳にしていました。このような取り組みはやってみる価値があるし、私自身も何かしらは貢献又は負担はしたいと思えます。

小屋のスタッフの皆様へ感謝します。自分が使うルートへの寄付は惜しみません。スイスやオーストリアなど山岳観光先進国を見習うべきですね。

登山道の整備に感謝しています。放置するとすぐあれるので大変だと思います。今後もどうぞよろしくお願い致します。

登山道、山小屋の維持出来てこそ、登山できる喜びが有る

登山道維持のためにも、山小屋存続のためにも可能な限り支援したいと思います。よろしく申し上げます。

登山道維持のためならば、登山の度に寄付等することも当然だと思う。

使途事業:その他の使途への要望【約25件】

山小屋のトイレの近代化、入浴施設の設営、個室化促進を願います。寄付は厭いません。

善意に頼るよりは、ゲートを設けて強制的に登山料金を徴収するか、キャンプ料金・山小屋料金を値上げして、その収益から登山道維持費用に充てる方が良いと思う。また登山道維持費用のみならず、トイレの維持費用も山小屋はかさんでいるようなので、そのあたりの補助にも充てられる方策を考えては。

富士山のように入山時に協力金のアナウンスをしっかりとすべし。①登山環境や登山道を維持整備のために必要な寄付であること。②上高地エリアの環境を守る目的の協力金であること ③コロナ禍で山小屋経営が難しくなったこと などしっかりと挙げて訴えて協力金を強制する。上高地、新穂高の登山口にゲートをつくる。

登山初心者です。登山道の維持管理のありがたさを痛感しています。設備の充実も大事ですが、ご尽力いただく人材の確保も重要と思われるので人件費の充足も検討してほしいです。

マイナーな登山道にも寄付金を使用してほしい。

横尾から涸沢の間、石がゴロゴロと歩きづらい箇所あり。標識(〇〇まで〇キロ)がもっとあると良い。富士山の様に大々的にお金を徴収し、数年後に実施する(富士山は実証実験中、記念バッジを配布)

実施体制:肯定的意見【約 1 件】

登山者にとって捨てておけない問題と感じている。地方の山を含め継続的に登山者のマナーとして取り組む方法が確立されることを望みます。今春、某登山雑誌社がクラウドファンディングで山小屋の経営支援に取り組みました。山小屋には折に触れお世話になっているので細やかながら応援をさせて貰った。発起人に不安はなかったが、今になって今回のようなしっかりした組織が継続的に実施に取り組むべき問題だった感じている。

実施体制:透明性・管理体制への要望・懸念【約 14 件】

以前より入山料を徴収する事には賛成しております。個人的に危惧する事は入山料管理システムです。入山料を徴収する為に人員を配置したりシステムを構築する事で経費が掛かり、払う額の半分も登山道整備に従事される方に回らないなら山小屋に直接払いたいのが本音です。時が経つと横領なども気掛かりになってきます。もう既に検討されているでしょうが、手形などはいかがでしょう?立ち寄った山小屋で支払い収入は小屋組合で分配する。難しい問題ですね…

我々登山者が安全に登山を楽しめるのは、山小屋の皆さんほか関連する方々が登山道を整備していただいているおかげであることを感じています。特に昨年からはコロナ禍の影響もあり、山小屋の維持も大変であることを今夏山小屋を利用し再認識しましたので、長野県のクラウドファンディングにも参画しています。山小屋・登山道維持を目的として取り組むなら、同じ目的の自治体(長野県)と一緒に取り組んだ方が、長野県民・利用者に伝わりやすいのではないのでしょうか。

集めた寄付金の使い道が詳しく公表されることを希望します。登山道維持に直接携わる方々に必要な寄付金が届く前に中間で搾取するような組織や仕組みが存在しては意味がありません。

当然検討されているとは思いますが、収支報告と配分実績と事業実績を WEB に公開すべきでしょう。声の大きい組織への配分が多くなるような状態を避ける為にも、配分を検討する独立組織が必要でしょう。一方で、管理費の負担により山小屋への配分が少なくなる状態も避けるべきでしょう。制約条件が多く大変かと思いますが、良い形での仕組みができる事を期待しています。

お世話になっております 必要性は十分理解、共感しておりますが、持続性や拡がり考えると以下の二点が重要だと思います
・そもそも国立公園の環境維持についての、国・自治体・民間(山小屋・利用者(登山者、などステークホルダー)の役割分担を明確にすること

・お金の流れ、入りと出を明確にすること、併せてその妥当性をきちんと監査・評価するしくみを導入すること、
この二点を開示すること これらが整備されなければ、利用者(登山者の共感)は得られず、このような寄付も一発芸に終わり継続しません よろしくお願いたします

毎年 10 月に上高地を訪れていますが、9 月にたまたまこのプログラムのことを NHK ニュースで拝見して、たいへんな状況であることを初めて知りました。上高地インフォメーションセンターの方は、このプログラムについて直接聞いておられないようなことをおっしゃっていましたが、地域全体で協力して取り組まれるといいのでは、と感じました。

対象:対象地域(エリア拡大への要望等)【約 32 件】

北ア南部に限らず、ぜひ関係自治体と協力し、北ア全域に広げる取り組みにしたいと思っています。山はつながっています。全国的に取組むといいと思う

北、中央、南アルプス全ての山域での取り組みがされると良い。

今回は実証実験なので「寄付金が登山道維持に使われるエリア」が限定されていますが、本格運用になった場合は新穂高～黒部五郎～雲ノ平～水晶辺りまで広範囲に 理想を言えば北アルプス南部全域をカバーしてほしい

三県にまたがる北アルプスにおいて、一番経済的に充実している北ア南部に限定していることがおかしい。地方行政も 3 県でバラバラ、あれは県庁だ、これは警察の山岳担当だと相変わらずの縄張り意識で、登山者目線になっていない。さらにその上にこの北アプログラムである。うがった見方をすれば、また省庁が外郭団体を作って天下り先を確保しているのか!とも思わざるを得ない。まず最初に、長野、岐阜、富山における山小屋の統一の目線合わせをしてからカネをある目るべきであろう。今回の地震(9/18)についても槍ヶ岳山荘はサイト閉鎖(white out)、ヒュッテ大槍は従業員によると思われる「ブログ」で「注意してください」レベル、殺生小屋だけはインスタグラムで、崩壊写真、通行止めを明示しており、山小屋が緊急時に情報を発信して安全確保をしているとは到底思えない。ただただ登山道の整備だけなら、環境省が国立公園管理予算確保をして、三県にまたがる共通ルールを徹底させるべきである。それとも環境省が、将来の国立公園内の登山道利用の有料化の足掛かりにするという邪推も出来る。登山者はまだまだ山小屋利用しているが、テン泊トレラン(あいつらは登山道の脇の柔らかいところを走る)など金を全く落と

さないところからもどうやって金を使わせるか、問題視すべきである。北ア南部のみであったので、支払い金額に1000円と入力したが、お世話になっている北ア北部が入っていないので、支払いを止める。

北アルプス南部と区分けすると解りにくい気がします。新潟、長野、富山、岐阜で北アルプスとして足並みを揃えて実施してはいかがでしょうか？

南部地域だけでなく、北部(白馬、立山)エリアも合わせて北アルプスとしてこういった活動があるといいと感じた

対象:対象期間(期間延長への要望等)【約10件】

この取り組みは、大変有意義で評価出来ます。期間限定ではなく、ずっと実施していけると良いと思います。

せっかくの取組が他地域にはあまり知られていない。もっと早く、夏山シーズンから始めれば良かったと思う。また、ぜひ全国的な活動に拡大してほしい。

周知、集金の期間を通年とした方がいとおもいました。活動の時期が限られると知ったら終わってたになりそう

対象:対象者(登山者全員負担への要望等)【約38件】

大変良いプログラムだと思います。登山者全員支払うようなシステムになれば良いと思います。

登山道として協力できることがあれば、率先して協力したい。また、現地だけでなく遠方からでも、いつでも支援できる仕組みがあれば、ありがたいです。

入山料は義務化で良いと思う。また上高地エリアは登山者だけではなく多くの観光客が入りますが、道を外れて写真を撮ったり、有料トイレの支払いを無視したりする方が多く見受けられます。この様な方達にもルールをしっかりと周知して行くべきではないでしょうか。

北アルプス地域の観光客も対象とすれば良いと思います。

登山に対する意識の変革は必至 入山料の徴収もやむを得ない。高齢登山者が山に恩返しができるよう、いつでもどこからでも募金できる体制が整うと嬉しい。

入山料として、手軽な金額を取るのも良いと思いますし 企業のツアーに関しては、自然を利用して収益を得ているので環境維持費として徴収して良いと思います。

子供達にも参加してもらえる様に 未来へ繋ぐ登山道

インバウンド復活後の、外国人からの集客増も目指して各種施設整備を行い(様々な面で非現金支払い化を進める、登山道案内のピクトグラム化やナンバリング化を図るなど)、外国人登山者も取り込む事で、経済的に厳しくなっている山岳界の状況改善を目指してほしいです。

収受方法:収受の場所【約78件】

登山道整備費の現状について今回初めて知りました。個人的には登山届は電子申請を利用しておりますので、登山届の電子申請と協力金支払がセットで簡単にできる仕組みがあると便利だと思います。

登山口で登山道維持料金として500円現金又は電子マネーで払う形にしてはどうか。メイン登山口には人を立たせないと難しいかもしれません。

募金箱を目立つ所に置いて欲しいです。

登りは急いでいて気が付かず、下山後に気がついた クレジットカードはあまり使いたくないので、登山口でお声掛けいただければありがたい 登らせてもうのだから、500円でもいいのかなと思う(もっとできる人はもっと)火打山も強制ではないのですが入り口で人がいらっちゃって、ほぼみんな寄付している、と思います。雷鳥のストラップみたいなものを頂きました。

今回初めてアルプス山脈の登山道に足を踏み入れ初日の涸沢カールで地震に遭い、予定していたザイテングラードを通る事が出来ず残念でした。今後は少しずつでも良いので改修して早く元の姿に戻れば良いなと思いました。登山道の入り口(例えば横尾)に募金箱を設置し募金者にはリボンみたいな物を手渡し、ザックに結べるようにしたら登山中に登山客同士でもその方の山に対する考え方!みたいな事も分かると思うか、感じる事も出来るので良い方法では無いか?と少しだけ思いはしたのですが、僕はいつでもアルプスにいつも来れるような土地に住んで無いので登山道整備等の手伝いはなかなか難しいので募金ぐらいしか考えられませんが、近くにいるなら毎週でも登山道整備の手助けが出来たら良いなあとと思う素晴らしい場所でした。

登山口や山荘、ロープウェイ乗り場などでの寄付金や入山料の支払いであれば、協力しやすいと思います。登山道あってこそその登山なので、本来無料である方がおかしいと思います。富士山や伊吹山のように、登る際に協力金の支払いは必要なことだと思います。オンラインでの寄付は広い範囲の方に協力していただきやすいと思いますが、利用する方からこそ、頂くべきだと思います。

山小屋、上高地、各登山口に現金の募金箱があれば募金したいと思う。

山小屋のトイレ利用時の様に、登山口や山小屋にBOXを設けて『登山時にはご協力をお願いします』的な感じでワンコイン(500円)入れる、それが常態化すれば良いなあとと思います。

登山道がなければ登山をできないので、登山届と同時に維持管理目的として入山時に徴収する箱が横にあれば、普通は払うと思います。

楽天、Yahoo!、アマゾンなどネット上のポイントで寄付ができるとよい。登山用品店に募金箱を置き、少額から寄付ができるとよい。

登山口や山小屋、近くの大きな駅(松本駅等)などで寄付できる仕組みがあれば継続して寄付していくことができると思います。登山口までのバスや駐車場で追加で支払うのもいいと思います。電子マネーが使えたら簡単でいいと思います。

収受方法:支払い方法【約77件】

決済方法は、その場での徴収なら、現金寄付よりクレジットカードや電子マネー決済の方が好ましい。現金は山小屋やトイレで使用

するために取っておきたく、出来れば使いたくない。財布は防水袋に入れてザックにしまっている、取り出すのが面倒。その点スマートフォンはGPSロガーとして使用する、取り出しやすい位置にしまっている。寄付する時期は、入山前より下山後の方が好ましいと思う。印象として、今回通ってきたあの道の整備が、と納得して寄付できた。理想的には、登山計画書の提出、寄付金の支払い、等がワンストップで行えるようになれば便利と思う。

趣旨に賛同します。ただ、払う人と払わない人との公平性の観点から、今後は主要な登山道入口で係員による対面徴収をすべきと思います。

火打山のように強制的にお金を払うシステムにした方がいい。日帰りの人も増えてますし。1 入山 1000 円。現金、PayPay などのQRコード払いなら導入しやすいのでは？もしも火打山のようにプレゼントを渡すなら引き換え券をもらって下山後でもオッケーにしてほしい。支払い証明を出し帰りも確認。確認できない人は帰りに支払いにして欲しい。支払いは前払いも簡単にオッケーにしていただき混まないようにしてほしい。

趣旨には賛成だし、協力したいとも思っています。強制的に 500 円づつ取るのもいいのかもと思いますが、クレジットカードや銀行振込は面倒だなと思っています。任意ならトイレの課金のように山小屋の玄関に置いてもらえば入れていきやすいです。管理にかかるお金については登山者がある程度負担すべきだと思うので、寄付金ボックスやバーコード決済の設置をすべきと思う。

寄付金は登山道入口で払う仕組みにするべき。登山前に係員が呼び掛けをしていれば気持ち良く支払うが、クレジットカードの情報を入力したり、銀行振込みなんて面倒でやらない。

金額設定:肯定的(一口500円)【約18件】

ひとくち500円なら寄付しやすいと思いますので頑張ってください！

大いに賛同できる取り組みだと思います。寄付はHPにもありますように一人500円からの受付がよいかと思っています。もっと協力できる方はより多くの寄付をされると思うので。

私の体力的に実務は難しいのかと思うので、少額ながらも資金面での支援を継続的にできたらいいなと思いました。いっぺんに大金だと少しビビってしまうのですが、少しでも寄付が継続的にできる仕組みがあれば参加したいなと思います。

金額設定:その他の金額設定への意見【約64件】

登山は色々お金がかかります。登山道の整備にお金を払わないような人は装備に関してもちゃんと出資できていないはず。2000円と書きましたが、5000円でもいいくらい。それにより、安易な登山者が減るのは良いことだと思います

基本的に受益者負担が望ましいので、毎回ごとに1000円は寄付するべきと思う。この1000円でどこまでことができるかはわかりませんが。

登山時に協力金を払うのは少額(1000円以下)であればいいと思うが、公平性が必要と思う。ゴミを持ち帰る、トイレの利用する時は100円払うなどと同じだと思う。

このご時世、収益が激減している中でも山小屋の維持運営ならびに登山道の整備まで行っていただき、関係者の皆様には感謝しています。利用させていただく側として、整備にかかる費用を分担するのは当然のことと考えます。また、ある程度のまとまった金額(1000~2000円、またはそれ以上)の入山金を設定することにより、必然的に登山に対してのモチベーションが高い人が訪れるようになり(軽装備で安易に入山する人は来なくなるのでは？という意味)、結果的に事故や遭難事例も減っていくのではないかと思います(ゴミ問題も)。今後もしばらくはこの状況が続くと思われるので、「今までのやり方」は一旦捨てて、「これからの在り方・登山スタイル」を構築されていくことは賛成です。関係者の皆様方も大変なご苦労かと存じますが、利用者としてできることは協力したいと思いますので、今後ともどうぞよろしくお願いします。ありがとうございました。

入山協力金として一律で1人最低1000円(上限無し)で徴収しても良いと思う。登山道の維持があってこそその登山だと思うので。それくらいの協力金を払わない人は登山する資格は無いと思います

登山経験は学生時代主体でほぼ過去のことだが山を大切に思う気持ちを持つ人はたくさんいると思う。広く活動を呼びかけ、5000円以上の寄付で写真や絵葉書などもらえたらいいのでは

すべての山で入山料を取っていいと思います。500~1000円

登山者から一口の金額をなるべく低くして、幅広い支払い方法で寄付できる様にしたらいいと思う。クラウドファンディングも併せて。

入山料日本人1000円海外旅行者2000円位取るべきだ

登山道使用料として、計画山行日数分を単位として納めてもよいと思う。その代わりに、どういった整備が為されたかは組織団体のブログにアップして欲しい。トイレの整備もお願いします。

情報発信:取組の周知【約97件】

現在、焼岳の中の湯ルートも昨年度に続き登山道の整備が始まりました。ガイドのみなさん方が30~40キロの階段などを背負って上まで運ぶ姿をみたり、登山道の点検、整備にいらしている姿をもっと登山者のみなさまに知ってもらった機会を作った方がよいと思います。全国ニュースや地元のニュースにも取材してもらって放映すべきだと思います。

インスタグラムやYAMAPを始めとした各種SNSを利用して、アンケートや寄付、広報活動を行うのが成果あるやり方と思う。

山が好きな人なら維持管理の為に協力すると思う。広報活動をもっとやると良いと思う。アウトドア用品売場、youtubeなど

この問題を偶然みたニュースで知りました。Twitterでハッシュタグを作って、もっと広めて欲しいです。そうすれば、この問題をもっと多くの人へ知って貰えると思います。

ネットニュースになっていて知ったが、そのニュースにはクレジットカードでも支払いが出来る事が書いてあるにも関わらず、リンクが貼ってなかった。これでは寄付は集まらないのではないか。広く寄付を募るべき案件にも関わらず、すぐお粗末な記事であった。

通行人利用人が僅少な未整備道の脇に寄付案内を設置する

旅行会社と提携したりして、広く登山道整備の問題を利用する人たちに知ってもらうようにしたほうがいいと思います。それこそSNSで整備状況を発信するとか・・・。

雑誌で存在は知っていたが名前がわからず、関係ありそうなリンクを使ってようやく見つけた。上高地の公式サイトや観光協会、宿泊施設サイトやyoutubeの広告、チャンネルなどで広報したらもっと広く知ってもらえるかもしれない。

最近ではコロナの影響もあり、北アルプスへ行っていなかったのでTwitterで上高地でトレイルプログラムのカードを配っていることを知りました。既に行っているかもしれませんが、各山小屋、登山口、登山ウェア(ギア)販売店(ブランド含む)にこのプロジェクトについてのポスターなどを掲示させてもらえれば、もっと周知できるのでは無いかと思います。難しいかもしれませんが…。どうかご検討ください。

○2021年10月2日から10月3日の日程で上高地～横尾～涸沢を登りは涸沢ルート、下りはパノマルルートで通行で訪れたが、登山中に本プログラムを行なっている旨の記載のある掲示物を目にする機会が少なかった様に思う。闇雲に掲示をすれば良いものではないと思うが、もう少し多くの人の目に留まる位置へ掲示するなど場所の工夫をしても良いのではないかと感じた。

情報発信:取組の結果報告【約30件】

寄付を募る上で必須の事だと思うので、収支明細を公表して欲しい。すでに公表してるなら閲覧方法をもっと広く知らせるべきと思う。寄付金の使用用途がハッキリすれば寄付金の増額も再考しやすくなる。

事業計画や収支報告を広く知らせよう、広報活動にも力を入れてもらいたい。

500円のうち、広報、委託費、人件費、などに資金がかかり純然たる維持にいくらかかっているかを明確にする事。天下りの人件費や事務局の菓子代や会議打ち合わせ名目の酒代に消える資金の為に500円を払っている訳でない。

安全な登山道を整備していただき、ありがとうございます。今回の取り組みに心から応援申し上げますとともに、可能であれば、具体的な活動内容、予算の内訳など明細も示していただけたらわかりやすいと思います。何を、いくら必要で、どれほどの手間をかけていただいているのか、すでに整った登山道しか見てきていない私には説得力にかけてしまうのです。想像力が至らなくて申し訳ありませんが、ご検討いただけたら幸いです。

お金を集めることは大賛成です。しかし屋久島の協力金の悪例もあります。集金額、用途など明快ですみやかな情報を求めます山小屋の方々が、安心安全の登山ができていますので、本取り組みには、賛同しています。今後集まった寄付金の使途を明確にすることで、より多くの方からご理解いただけると思います。応援しています。

1.リアルタイムでの寄付金額の集まり具合と結果報告

2.収支報告と支出内容の定期的報告 これがないと継続的な募金意欲につながらないです。

集まった額と、具体的に今後どのような事に使われるのか、明確に知りたい。

情報発信:登山文化・登山のあり方・マナー【約50件】

大変有難うございます。この頃は気になるのはトレランで来られる方で所構わず落石を起こしながら駆け下ってくる人達が増え、危険です。どこかでもう少し注意喚起して欲しいです。すみません。登山道とは関係ないですが、登山道は痛みます。

技術・知識・意識の低い登山者が増えている。登山道を痛めないためにも、登山道を痛めにくい正しい歩き方や道具の使い方、それらに対する意識の啓蒙活動も必要。

近年、海外の登山者が増え、特に中韓ですがゴミを落としても拾わないなどモラルが悪いように思えます。

ここ最近、登山者の行動(クサリ・ハシゴでの道の譲り方、軽装のトレランなど)について、少しヒヤッとする場合があります。お金だけでなく、登山道の歩き方についてのマナー教育も必要ではないでしょうか。

登山初心者(おばちゃん)のマナーが悪い方がいらっやるのは大変残念な事です。

若年層の個人スキルで登山する方には、理解が進まないのかと思いました。

テント泊料金の値上げ、昨今の混雑を考えると今後当該山域への山行は回数は減ると思う。お金の問題だけでなく、オーバーユースにならないようどうすべきかも検討すべきだと思います。

登山者の増加によりマナーの悪い登山者も増えていると感じます。登山時の基本的なマナーを書いた掲示板などを増やすことで、マナーを知らない方に知ってもらう活動を行なってみてはいかがでしょうか？

登山道は自治体が整備しているものだと思っていた。特に上高地は国立公園であることから国が整備を主導しているのだと思っていた。もっと整備しているのは誰なのか、その重要性について周知されれば良いと思う。また、上高地は近年の外国人登山者の増加に伴い、登山道を外れた場所に侵入する人が増えているように感じる。それらへの対応策が成されれば良いと感じる。(可能不可能は別として、小笠原や奄美のようにガイド同伴を必須とするなど)

基本的な登山マナーを知らない人があまりにも多くて閉口しました。登山道入り口など目立つ所に「登山は上り優先、下る人は山側に立って待機」等々基本的なマナーを啓蒙する看板を立てていただければと思います。

最近、登山者のマナーの悪さが目につくようになったので、基本的なマナーを啓蒙する必要があるものそれにより事故の減少につながると思う。

その他:記念品・特典【約38件】

いつも整備してくださって感謝しています。ありがとうございます。妙高、火打の登山口とかでは、募金すると小さい雷鳥の木のストラップ?や、大杉谷では自販機で募金できて入れると木のストラップが出てきたりします。物に釣られているわけでは無いのですが、

協力できたのかなと自己満足しています。募金は、本当に自分の思っている方たちに届いているのかと思ってしまう事がありますので。

私はこのプログラム賛成です。募金された方にオリジナルステッカー等配ってみると募金数がもっと増えると思います。

登山道維持ご苦労様です。要望になりますが、年会費とかにするならヘルメットとかに貼れる小さいステッカーとか何かあると嬉しい。今年7月連休に蝶ヶ岳ヒュッテでの「ポカリスエット粉末の歩荷お願い」がありましたが、簡単な荷上げはWEBで募集しても良いと思います。

第一に、皆にこの現状を知って貰う。登山ショップ等にチラシを置いて寄付を呼びかける。山岳会等にも協力を仰ぐ。ショップなどを通じて通年寄付を呼びかける。第二に、登山道維持に協力した人に、ポイント制を導入して、ある程度たまった人に記念品と交換とか...

登山道の維持をしていただいて感謝します!ありがとうございます。先程の質問でもあった、登山道の整備ツアー?ですが、ちょっと遠くて行けない人や、時間に余裕がなかったり、難しい人もいたりするのかなと思います。とても凶々しいですが、何か特典(ノベルティー付き、地図読みや、1泊2日で夜はロープワークを教えてもらえるなど)があると、微力ながら資材のポックやゴミの清掃に協力する人が増えるのかも。。自分たちが歩く登山道、そもそも寄付や労力の提供は当たり前でもありますが。本当に凶々しいですね。スママセン。もしくは、危機感が伝わるよう、実際に登山道の整備にいくらかかっているのか、金額を出してみるなど。

各山小屋で寄付を受け付け、見返りにその山又は山小屋独自の「ステッカー又はバッジ」が貰える仕組みにしてはどうか? 例えば、500円はステッカー、1000円はオリジナルバッジ。規格を統一して、コレクション目的にもなるようにしたら、喜んで払う人はいると思う。

例えば寄付金3000円でコレクション性のあるオリジナルのピンバッジを山小屋で配布したら 全てコンプリートしたくなります デザインも5年に1回変えたりすると継続して寄付が集まると思います

その他:アンケート【約12件】

いつも登山道を安全に維持していただいて本当に感謝しています。今回のアンケートで登山道の整備が山小屋の収益からの負担ということも知りました。 それにしては山小屋の宿泊料金が安いなと思いました。このエリアの登山を楽しまれる方はそれなりに金銭的余裕のある方も多いと思いますので、思い切った値上げやプレミアム価格(寄付込で優先的に予約がとれるなど)があれば利用する方もいるのではないのでしょうか。(私はぜひ利用したいです。)

なんとなく登山道の維持や、山小屋の経営が厳しい事は知ってました。アンケートを答えていくうちに自分ごとになるので、取組は必要だと思います。

受益者負担の観点から、建てられたものと思いますが、半ば、強制的に請求されることに反対する人もいるかと思っています。寄進もしくは、クラウドファンディングのような簡単な返礼品を返す方法が良いと考えます。また、アンケートですが、現役で活動されている方を対象とされているようになっていますが、離れた人にも賛同する人が、多数いることも考慮していただければと考えます。

集計したアンケート結果を開示してほしい。またそれを今後どのように生かすのか発信してほしい。

アンケートは協力する意思のある人の声しか拾えないと思うので、登山道維持の重要性を広めることが重要だと思う。

今回のアンケートも意識啓発のために有意義だと思います。

詳しい取り組みはわからないが、登山道維持のため協力したい気持ちになった。アンケートが少々長い。

設問数が多過ぎますので、もっと質問を絞らないと回答数が減ってしまうと思います。登山道の整備には大変感謝しております!

その他【約18件】

トラスト化を含めて網羅的に検討しておられ頭が下がります。基本的な方針には賛成ですが、日本一の強烈な魅力のある本地域が積極的な市民支援を募り、寄付ベースの山岳維持の象徴的成功例、新たな寄付文化の中核となられることを期待します。北アルプスは険しく、もう行けない方も多し一方、人生最高の思い出・景色だと思える人も膨大な数に上るはず。遺贈の受け入れ、現地小口寄付と大口寄付の併用(大口にはプレート記名)、寄付総額に応じた継続的なモニュメント構築(例:槍の近くに、プレート台を兼ねた築山など)とそれの例大祭化...などで、100年続いて世界に誇れる取組になることも可能ではないでしょうか。

この取り組み用のアプリがあると便利(面白い)だと思いました。(情報の共有や支援) ゲーム感覚で支援できる仕組みや支援した場所に名前が出るなど参加型になると面白いですね。